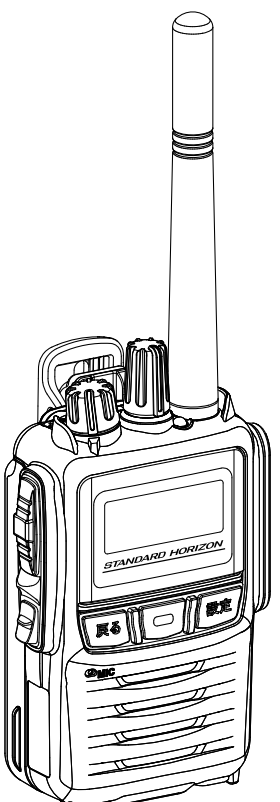
STANDARD HORIZON

携帯型デジタルトランシーバー

SR740 Bluetooth®

SR730



Digital
【 資格不要 】

デジタル 82 チャンネル
3R 3T 登録局

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございました。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。

このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

目　次

はじめに **2**
正しくご使用いただくために **3**
防水性能について **3**
電波干渉について **3**
通信方式に関して **4**
デジタル簡易無線局について **4**
構成品 **5**
オプション **5**
購入後に初めて電源を入れた時（Bluetooth® の設定 :SR740 のみ） **6**
クイックガイド **8**
P1 キー /P2 キー **9**
P1 キー /P2 キーに機能をプログラムする 9
便利な機能 **12**
① マルチチャンネル待ち受け機能 12
② CUE（キュー）機能 13
③ Bluetooth® ヘッドセットでハンズフリー運用をする 14
④ リモート PA（拡声器）機能 15
各部の名前と機能 **16**
準備 **22**
アンテナの取り付け 22
ベルトクリップの取り付け 22
リチウムイオンバッテリーの取り付け / 取り外し **23**
リチウムイオンバッテリーを取り付ける 23
リチウムイオンバッテリーを取り外す 23
リチウムイオンバッテリーの充電方法 **24**
リチウムイオンバッテリーを無線機に取り付けた状態で充電する 24
リチウムイオンバッテリー単体で充電する 25
アルカリ乾電池ケースの使いかた **26**
電池の消耗について **27**
基本的な使いかた **28**
キーロック機能 29
通信方式について 30
UC（ユーザーコード）通信 **31**
UC（ユーザーコード）通信の設定方法 32
個別通信 **33**
個別通信の準備 34
個別通信の呼び出し方法の設定 35
呼び出しを受けたとき 37
通信時に動作する機能について **38**
キャリアセンス機能 38
通話中の「ピピピ」音（連続送信時間制限） 38
ヒートプロテクション（高温時の保護機能） 38
送信出力設定 39
音声自動送信（VOX）機能 39
セミ VOX 機能 40

ミュート（消音機能）.....40
ローンワーカー（自動的に緊急モードが起動する機能）.....41
マンダウン.....42
簡易設定.....43
ユーザーコード.....45
ライト禁止.....46
秘話通信機能.....46
再生機能.....46
クイックアンサー機能.....47
ローンワーカー.....47
マンダウン.....47
リモート PA.....47
待受受信機能.....47
待受受信タイプ.....48
待受受信 CH.....48
待受受信指定 CH1 / 待受受信指定 CH2.....48
RX イコライザー機能.....49
TX イコライザー機能.....49
ノイズキャンセル機能.....49
送信出力.....49
音声自動送信（VOX）.....49
セミ VOX.....49
VOX 感度.....49
メイン画面.....50
Bluetooth® 機能（SR740 のみ）.....50
自局情報.....52
無線機情報.....52
宛先 ID（個別通信のみ）.....53
アンサーバック（個別通信のみ）.....53
着信履歴 / 発信履歴（どちらも個別通信のみ）.....53
メッセージ送信（個別通信のみ）.....54
メッセージ確認（個別通信のみ）.....54
リモート制御（個別通信のみ）.....54
コール動作（個別通信のみ）.....55
ARTS 機能（個別通信のみ）.....55
ロータリー動作（個別通信のみ）.....56
セカンダリ PTT 機能.....56
PTT ホールド機能.....57
UC ベル機能（UC 通信のみ）.....58
個別ベル / グループベル（個別通信のみ）.....58
拡張機能.....59
機能拡張メニューの基本的な操作方法.....59
セットメニュー.....60
コールメニュー.....72
オプションの取り付け.....76
故障かな？と思う前に.....77
定格.....78
安全上のご注意　～必ずお読みください～.....80
索引.....82

はじめに

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受けることが必要です。
本機をご使用になる前に、別紙「登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注 意

登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第９章 110 条に定められた罰則 (一年以下の懲役又は百万円以下の罰金) が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

● ご利用にあたって

◎ 本機は、技術基準適合証明を取得し、ARIB 規格に準拠していますので、他社のデジタル簡易無線機（種別コード「3R 3T」）との互換性を確保しています。ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。
◎ 本体背面に貼り付けてある“証明ラベル”を剥がしたり、“分解”や“改造”を行うことは、法律で禁止されています。
◎ 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります。
◎ 本説明書には、工場出荷時の標準的な設定での説明が記載されています。

● 免責事項

◎ 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害について、当社は一切責任を負いません。
◎ 本機を使用して生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

● アフターサービス

◎ 正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店にご相談ください。

製品に関するお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社国内営業部までお願いします。

八重洲無線株式会社
〒 140-0013 東京都品川区南大井 6-26-3 大森ベルポート D-3F
TEL：03-6404-6525

正しくご使用いただくために

◎本機にマイクロホンなどを接続する際は、必ず当社純正オプションを使用してください。当社純正品以外のオプションを使用すると、故障や破損の原因になります。
当社純正品以外のオプションの使用が原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、弊社では一切責任を負いません。
◎リチウムイオンバッテリーを充電する際は、必ず当社指定の充電器を使用してください。当社指定以外の充電器を使用すると、火災や故障の原因になります。
◎外部マイクロホンを取り付けた際は、コードを強く引き伸ばしたままにしないでください。
コードの断線などにより、故障の原因になります。
◎直射日光や熱風の当たる場所、水のかかる場所に放置しないでください。
◎電波法により、無線機やマイクを分解・改造・指定以外の装置を接続することは禁じられています。
◎周囲温度が極端に高い場所、または極端に低い場所での使用は避けてください。
◎通話する際は、マイクから約５センチ離して普通の声量で話してください。
マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声が割れたり、歪むことがあります。
◎運用が終わりましたら、バッテリーが消耗しないように、無線機の電源を切ってください。
◎内部の点検・修理は、お買い上げいただきました販売店にご依頼ください。

防水性能について

本機は、IEC 国際規格 IP68 相当 (防塵等級６※1、防水等級８※2) の防塵、防水性能を有しています。この性能を末永く確保していただくために、必ず、ご使用になる前に下記の項目をご確認ください。

◎キーやボタンのラバー、MIC/SP 端子のアクセサリーコネクタ保護カバー、リチウムイオンバッテリー接合部分などに、キズ、劣化、汚れがないか確認してください。
◎海水砂泥などが付いたときは、ケースが損傷していないことを確認した上で、真水の溜め水で濯ぎ、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
◎本機の汚れを落とす際に、蛇口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなったりしないでください。
◎本機は、水中での使用はできません。
※１：粉塵が内部に侵入しない。
※２：水深 1.5m に 30 分間没しても有害な影響を受けないこと。

電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合に、隣り合うチャンネル同士の電波の干渉により、通話に支障が生じることがあります。このような時は、隣り合うチャンネル (例：“CH01” と “CH02”) でのご使用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

通信方式に関して

◎ 本機は、デジタル簡易無線機（登録局）として認証を取得しています。無線機の登録及び開設申請をすることでご利用いただけます。

◎ 登録申請および開設申請につきましてはご購入いただきました販売店、または当社国内営業部あてにお問い合わせください。

◎ 本機は、ARIB 規格に準拠していますので、他のデジタル簡易無線機（種別コード「3R 3T」）との通話互換性を確保しています。
※ ARIB 規格以外の機能の互換性はありません。

デジタル簡易無線局について

デジタル簡易無線局の登録局は、下表のように分類されています。

種別	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数	使用範囲
登録局	3R 3T	351MHz	82	陸上及び 日本周辺海域
登録局 （上空利用）	3S 3U		15	陸上及びその上空、 日本周辺海域

本機は種別コード「3R 3T」の“登録局”として開発されたもので、スカイスポーツ等、上空でのご利用はできません。

チャンネル構成とコールチャンネル

本機のチャンネル構成（ARIB 無線設備の種別コード「3R 3T」）

◎ チャンネル構成（通話チャンネル）
“CH01”～“CH82”の 82 チャンネルが利用可能です。

◎ コールチャンネル
“呼出 CH15”は「コールチャンネル」に設定されています。
コールチャンネルでは、ユーザーコード（31 ページ参照）は自動的に“000”に設定され、秘話通信機能（46 ページ参照）は自動的に解除されますので、ARIB 規格で定めている「呼出用チャンネル」として、ご利用いただけます。

注意 コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

補足 コールチャンネルでは、ユーザーコードおよび秘話通信の設定をすることができません。

◎ 上空用チャンネルモニター（受信専用）
セットメニューの「F32　上空チャンネル」を“モニター”に設定すると、上空用チャンネルの15チャンネル（CHS1～CHS15）を受信することができます（69ページ参照）。上空用チャンネルで**PTT**（通話）ボタンを押しても、警告音が鳴って送信できません。

構成品

◎ 無線機本体 1
◎ アンテナ※（SRA-12FS） 1
◎ 1900mAh 標準型リチウムイオンバッテリー（SBR-33LI） 1
◎ 急速充電器セット 1
◎ ベルトクリップ 1
◎ アクセサリーコネクタ保護カバー（無線機本体に取り付けられています） 1
◎ 取扱説明書（本書） 1
◎ 無線局登録申請書 1
◎ 無線局登録申請の手引き 1
◎ 保証書 1

※ λ /4 短縮型、利得 2.14dB 以下

不足品がある場合には、お買い上げの販売店にお申し出ください。

オプション

◎ 1200mAh 薄型リチウムイオンバッテリー..... **SBR-31LI**
◎ 1900mAh 標準型リチウムイオンバッテリー..... **SBR-33LI**
◎ 3350mAh 大容量リチウムイオンバッテリー..... **SBR-34LI**
◎ 急速充電器セット（付属品と同等）..... **SAD-3425B**
◎ 連結型充電器 **SBH-30**
◎ 連結型充電器用ＡＣアダプター **SAD-52A**
◎ アルカリ単４形乾電池ケース **SBT-16**
◎ 防水スピーカーマイク（防浸形 IP57）..... **SSM-10C**
◎ 小型スピーカーマイク（φ 2.5mm イヤホンジャック）..... **EK-404-581**
◎ コンパクトスピーカーマイク（φ 3.5mm イヤホンジャック）..... **SSM-11C**
◎ スピーカーマイク（φ 3.5mm イヤホンジャック）..... **SSM-19C**
◎ Bluetooth® ヘッドセット..... **SSM-BT10**
◎ 小型タイピンマイク＆イヤホン（イヤホン一体型）..... **SSM-56C**
◎ 小型タイピンマイク＆イヤホン（イヤホン着脱可）..... **EK-313-581**
◎ タイピンマイク＆イヤホン（イヤホン着脱可 / 大型 PTT ボタン）..... **EK-505W**
◎ 咽喉マイク＆イヤホン..... **EM-01-581**
◎ イヤホンアダプタ（φ 2.5mm イヤホンに対応）..... **EA-581**
◎ EA-581 イヤホンアダプタ対応イヤホン..... **ME101/100CM**
◎ SSM-10C 用イヤホン..... **SEP-10A**
◎ キャリングケース（SBR-31LI 用）..... **SHC-33**
◎ キャリングケース（SBR-33LI、SBR-34LI 用）..... **SHC-45A**
◎ 肩掛けストラップ（SHC-45A 用）..... **SHS-12**
◎ ラバープロテクションケース（SBR-33LI 装着時専用）..... **SHC-37**
◎ ワンタッチリリースホルスター（SBR-33LI 装着時専用）..... **SHB-100A**
◎ ベルトクリップ（付属品と同等）..... **SHB-21**
◎ ステンレスベルトクリップ..... **SHB-23**
◎ ステンレスクリップ（SBH-100A 用）..... **SHB-25**
◎ スタビーアンテナ（アンテナ長約 100mm、付属品と同等）..... **SRA-12FS**
◎ スタビーアンテナ（アンテナ長約 50mm）..... **SRA-23FS**
◎ ホイップアンテナ（アンテナ長約 203mm）..... **SRA-11F**

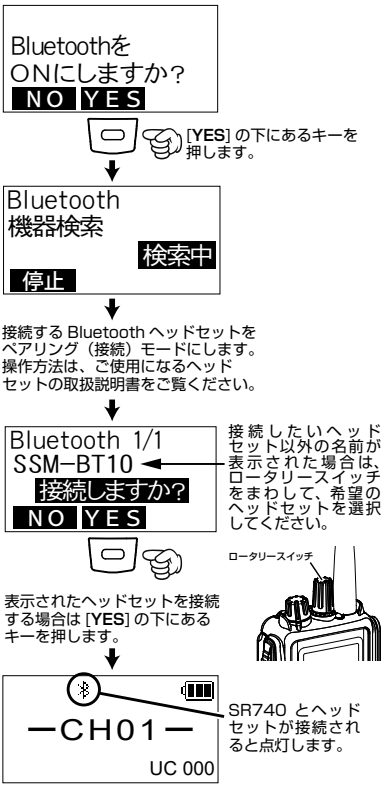
リチウムイオンバッテリーはリサイクルできます。
リチウムイオンバッテリーが不要になった場合は廃棄せず、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力事業者にご相談ください。

Li-ion

購入後に初めて電源を入れた時(Bluetooth® の設定 :SR740 のみ)

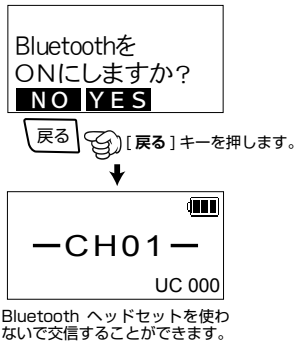
購入後に初めて電源を入れたときは Bluetooth® の設定画面が表示されますので、Bluetooth® を使う方も使わない方も、始めに下記の手順で設定してください。

Bluetooth® ヘッドセットを使う場合



・次回からは、この Bluetooth® 設定画面は表示されません。SR740 とヘッドセットの電源を入れるだけで、自動で接続されます。
・送信するときはヘッドセットの送受信切り替えボタンを押します。もう一度押すと受信に戻ります。

Bluetooth® ヘッドセットを使わない場合



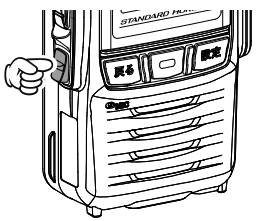
Bluetooth ヘッドセットを使わないで交信することができます。

次回からはこの Bluetooth® 設定画面は表示されません。SR740 の電源を入れると上記のチャンネル番号の画面が表示されて交信を始めることができます。

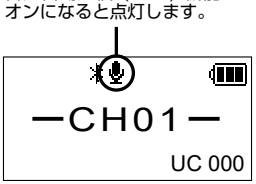
●音声自動送信（VOX）機能

話すだけで自動的に送信状態になり、話を終えると自動的に受信状態に戻るハンズフリー通話ができます。
あらかじめ、音声自動送信（VOX）機能の設定を“Bluetooth”に設定しておきます（39 ページ参照）。

1. SR740 側面の P1 キーを短く押すと、音声で送受信を切り替えることができるようになります。



音声自動送信（VOX）機能がオンになると点灯します。



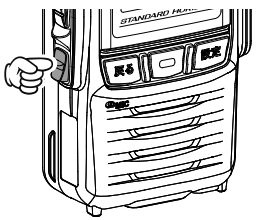
2. 音声自動送信（VOX）機能をオフにするには、もう一度側面の P1 キーを短く押します。

・Bluetooth® ヘッドセットのマイク感度を調節することができます。調節方法は“Bluetooth のマイク感度を調節する”（51 ページ参照）を参照してください。
・Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を減らすことができます。設定方法は“Bluetooth のセーブ機能を設定する”（52 ページ参照）を参照してください。

● Bluetooth® ヘッドセットを“使う”“使わない”の変更

あとからいつでも、Bluetooth® ヘッドセットを“使う”または“使わない”を変更することができます。

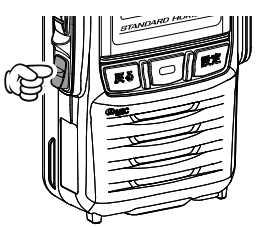
1. SR740 の電源を切ります。
2. 側面の P1 キーを押しながら電源を入れます。



3. “Bluetooth を ON にしますか？”の画面が表示されますので、左ページに記載してある操作を行って変更します。

● 接続するヘッドセットを変更したい場合

1. SR740 と Bluetooth® ヘッドセットの電源を切ります。
2. 側面の P1 キーを押しながら電源を入れます。



3. “Bluetooth を ON にしますか？”の画面が表示されますので、左ページの“Bluetooth® ヘッドセットを使う場合”の操作を行って、新たに接続したいヘッドセットと接続します。

クイックガイド

① 電源を入れます。

充電したリチウムイオンバッテリーを取り付けて、[**VOL**] ツマミを右にまわします。

【SR740 のみ】 購入後に初めて電源を入れたときは、Bluetooth® の設定画面が表示されますので、6 ページの「Bluetooth® の設定」を参照して設定をします。

② 音量を調節します。

[**VOL**] ツマミを 10 時から 11 時の位置にあわせておきます。その後、相手の音声が聞き取りやすい音量になるように調節します。

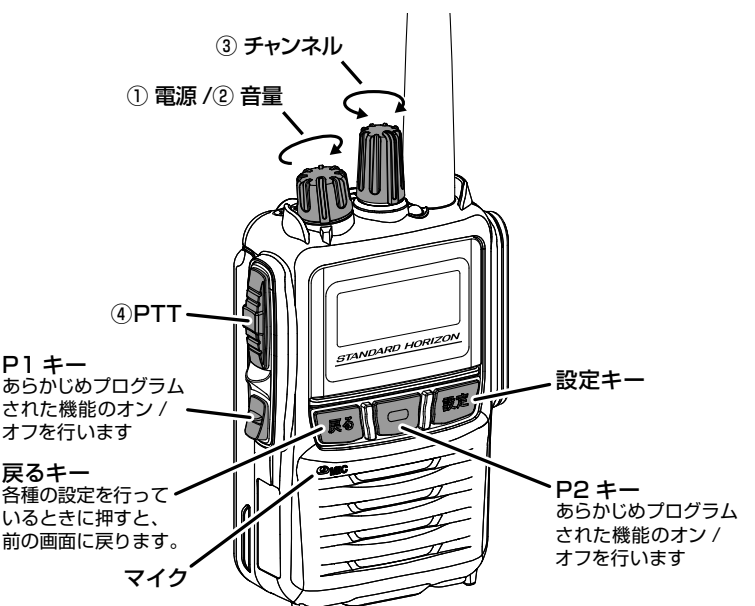
③ チャンネルをあわせます。

[**ロータリースイッチ**] をまわして、通話したい相手と同じチャンネルにあわせます。

④ 送信（通話）します。

PTT（通話）ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

PTT（通話）ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。



P1 キー /P2 キー

よく使う機能を P1 キー /P2 キーに登録しておくと、ワンタッチでアクセスすることができます。“短押し”と“長押し”で動作が異なる場合があります。
工場出荷時は以下の機能が設定されています。

P1 キー

短押し	SR730：受信音をミュート（消音）します SR740：話すと自動的に送信する音声自動送信（VOX）機能の ON/OFF
長押し	各キーやロータリースイッチのロック / ロック解除

P2 キー

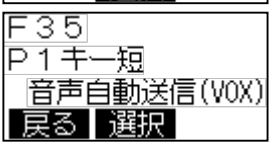
長押し	CUE 送信を行い、相手の無線機のアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行います。
2 回短押し	CUE を受信した時に鳴るアラームを ON/OFF します。

P1 キー /P2 キーに機能をプログラムする

よく使う機能を、P1 キーおよび P2 キーの“短押し”と“長押し”のそれぞれに設定することができます。

1. 一度電源を切り [▭] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「セットメニュー」を選び、[▭]（選択）キーを押します。

3. ロータリースイッチをまわして“短押し”または“長押し”、どちらの機能をプログラムするかを下記から選択します。



P1 キーの登録を変更する場合

短押しで動作する機能を変更する場合 → F35 P1 キー短　を選択
長押しで動作する機能を変更する場合 → F36 P1 キー長　を選択

P2 キーの登録を変更する場合

短押しで動作する機能を変更する場合 → F37 P2 キー短　を選択
長押しで動作する機能を変更する場合 → F38 P2 キー長　を選択

4. [▭]（選択）キーを押します。
5. ロータリースイッチをまわして設定する機能を選び、[▭]（決定）キーを押します。
6. 一度電源を入れ直してください。

P1 キー /P2 キーに設定できる機能

機能	動作
キーロック	キーやロータリースイッチがロックまたは解除されます（29 ページ参照）。
バックライト	ディスプレイ、戻るキー、設定キーの照明が点灯または消灯します。
待受受信	マルチチャンネル待ち受け機能（12 ページ参照）の有効 / 無効の設定。
待受受信 CH 設定	現在のチャンネルを待受受信対象または対象外に設定します。
送信出力	送信出力が 5W → 1W → 2.5W → 5W →…と切り替わります（39 ページ参照）。
ミュート	ミュート（消音）機能（40 ページ参照）を ON/OFF します。
音声自動送信（VOX）	音声自動送信 (VOX) 機能（39 ページ参照）が有効または無効になります。
セカンダリ PTT	押している間、セカンダリ CH に設定したチャンネルで送信します（56 ページ参照）。 ※：「F35 P1 キー短」と「F37 P2 キー短」だけに設定できます。
緊急	不慮の事故などの緊急事態をアラーム音で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して知らせることができます（64 ページ参照）。 ※：「F35 P1 キー短」と「F37 P2 キー短」だけに設定できます。
再生	録音された音声を再生・停止します（46 ページ参照）。
モニター	キーを押している間は、UC コードが異なる信号の音声も聞くことができます。
ローンワーカー	一定時間、送信（PTT）操作が行われなかった時に、緊急動作を自動的に起動します（41 ページ参照）。
マンダウン	本機が一定時間傾いたままになると、緊急アラームで知らせます（42 ページ参照）。
秘話	32,767 通りの秘話コードが一致する無線機どうしだけが交信することができます（46 ページ参照）。
クイックアンサー	あらかじめ録音してある音声を送信します（47 ページ参照）。
音声案内	現在のチャンネル番号を音声で読み上げます。
ワンタッチ VOL	音量ツマミをまわさずに、ワンタッチであらかじめ設定した音量にすることができます。
リスト 1 待受受信	待ち受け受信タイプの“プログラム 1”に登録したチャンネルで待受受信を行います。
リスト 2 待受受信	待ち受け受信タイプの“プログラム 2”に登録したチャンネルで待受受信を行います。
ライト禁止	ディスプレイ、[戻る] キー、[設定] キーの照明および LED インジケータの点灯を ON/OFF します。

機能	動作
CUE	CUE 送信を行います。
宛先切替	個別通信において、宛先を“一斉”→“グループ”→“個別”と切り替えます。
ロータリー切替	ロータリースイッチの動作を“チャンネル切替”または“個別 ID 切替”に設定します。
無効	機能無し

便利な機能

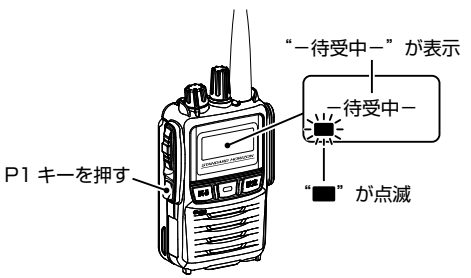
① マルチチャンネル待ち受け機能

部署やグループで異なったチャンネルを使用している状況で、チャンネルを切り替えることなく部署やグループ間の通話を簡単に行うことができます。

補足 マルチチャンネル待ち受け機能の設定に関しては、下記を参照してください。
- 待受受信機能について（47 ページ参照）
- 待ち受け受信タイプについて（48 ページ参照）
- 待ち受け受信チャンネルについて（48 ページ参照）

【例】P1 キーにマルチチャンネル待ち受け機能が設定されている場合

1. P1 キーを短押しすると、登録されている全てのチャンネルで信号の待ち受け受信を始めます。



2. 信号を受信した時は、受信したチャンネルで待ち受けが止まり相手の話を聞くことができます。その後、画面左下の“■”が点灯している間に PTT（通話）ボタンを押すと送信することができます。

・その受信が終るまで他のチャンネルの信号を待ち受けしません。

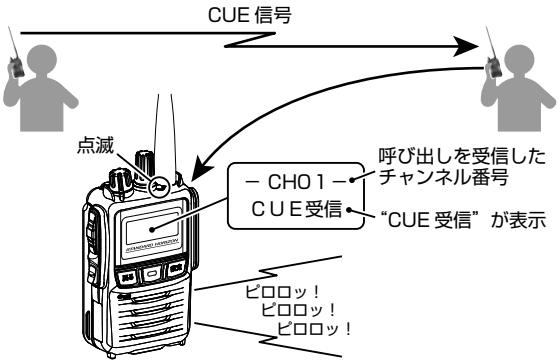
“■”の点灯が点滅に変わると、再びマルチチャンネル待ち受け動作を開始します。

マルチチャンネル待ち受けを中止する時

待ち受け機能が動作中に P1 キーを押します。

② CUE（キュー）機能

相手の無線機のアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。この機能は受信側の音量ボリュームに関係なく設定した音量でアラームが鳴り、同時に受信側の LED が点滅して、画面に“CUE 受信”を表示させます。
CUE を受信した時に無線機の近くにいなかった場合でも、“CUE 受信”の表示と LED ランプの点滅が継続しますので、戻った時に緊急着信があったことがわかります。



CUE を受信した後に PTT（通話）ボタンを押すと、CUE（キュー）を送信した相手のチャンネルで送信します。
マルチチャンネル待ち受け機能が動作中に CUE（キュー）を受信すると、待ち受け動作は一時的に停止し、“CUE 受信”の表示と LED ランプが点滅します。その後 PTT（通話）スイッチを押すと、CUE（キュー）を送信した相手のチャンネルで送信します。送信が終ると、再びマルチチャンネル待ち受け動作を開始します。

工場出荷時は、P2 キーの長押しに CUE 機能が設定されています。

P2 キーを長押しすると、相手の無線機に緊急を通知します。

工場出荷時は、P2 キーを 2 回短押しすると CUE ミュートを ON/OFF できます。

P2 キーを2回短押しすると、CUE を受信したときのアラーム音が鳴らなくなります。LED ランプの点滅と画面の “CUE 受信” は表示されます。もう一度 P2 キーを2回短押しすると、再びアラーム音が鳴るようになります。

③ Bluetooth® ヘッドセットでハンズフリー運用をする

オプションの Bluetooth® ヘッドセット “SSM-BT10” を使用するとハンズフリー通信が可能です。音声で自動的に送信と受信を切り替えて通話する “音声自動送信（VOX）機能” にも対応しています。
Bluetooth® ヘッドセットの設定は 50 ページの「Bluetooth® 機能」を参照してください。

Bluetooth® ヘッドセットを使用した通話方法は、以下の方法があります。

1. 音声自動送信（VOX）機能

話を始めると自動で送信状態になり、話をしている間は送信状態のままです。
話を止めると自動で受信状態に戻ります。

補足 あらかじめ、音声自動送信（VOX）機能の設定を “Bluetooth” に設定しておきます（39 ページ参照）。

SR740 の工場出荷時の設定では、側面の P1 キーを押して音声自動送信（VOX）機能を ON にします（ディスプレイに “🎙” アイコンが点灯します）。
音声自動送信（VOX）機能を ON にすると、話すだけで送信状態になりハンズフリーで通話ができます。

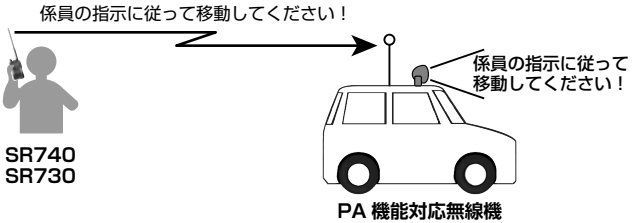
2. Bluetooth® ヘッドセット "SSM-BT10" のキーで送受信を切り替える

SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを短く押すと送信状態になり、もう一度短く押すと受信状態になります。

SR740 の工場出荷時の設定では、側面の P1 キーを押して、音声自動送信（VOX）機能を OFF にします（ディスプレイに “🎙” アイコンが点灯していない状態にします）。
これで、SSM-BT10 のマルチファンクションボタンを押して、送信と受信を切り替えることができます。

④ リモート PA（拡声器）機能

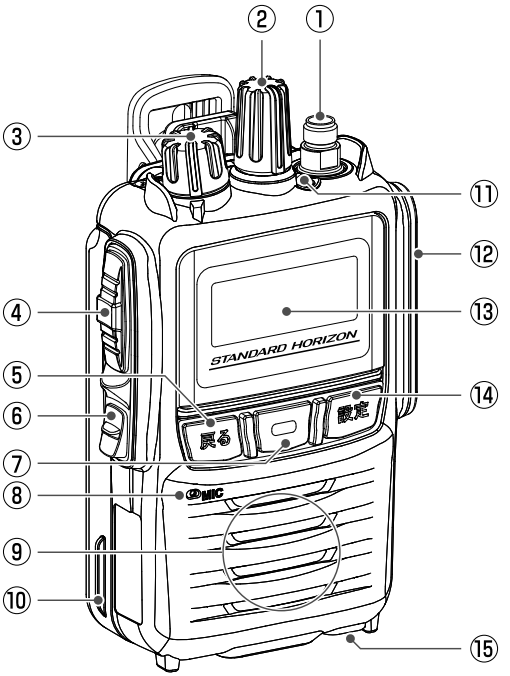
離れた場所にある PA（拡声器）機能対応無線機の PA 機能を動作させて、緊急連絡や避難誘導を行えます。



1. 一度電源を切り [▭] キーを押しながら電源を入れ、拡張機能画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「セットメニュー」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして “F28 セカンダリ PTT” を選び、[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして “リモート PA” を選び、[▭]（決定）キーを押します。
5. 一度電源を入れなおします。
6. [設定] キーを押して、簡易設定画面を表示させます。
7. ロータリースイッチをまわして “リモート PA” を選び、[▭]（選択）キーを押します。
8. ロータリースイッチをまわして “ON” を選び、[▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
9. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。
   リモート PA が ON のときは、ディスプレイに “リモート PA” が点灯します。
10. セカンダリ PTT を割り当てたキー（P1 キーまたは P2 キー）を押すと送信状態になり、他の無線機の外部スピーカーから音声が出ます。

各部の名前と機能

本体



① アンテナコネクター
アンテナを接続します。

② ロータリースイッチ
チャンネルを選択します。
簡易メニューやセットメニューの設定項目や設定を選択します。

③ VOL ツマミ
電源のON/OFFと音量の調節をします。

④ PTT（通話）ボタン
PTT（通話）ボタンを押すと、無線機は送信状態になります。放すと待ち受け/受信状態になります。

⑤ 戻るキー
各種設定を行っているときに、１つ前の画面に戻ります。

⑥ P1 キー（9 ページ参照）

よく使う機能を登録しておくと、ワンタッチでアクセスすることができます。“短押し”と“長押し”で動作が異なる場合があります。

【工場出荷時設定】

短押し：【SR740】音声自動送信（VOX）

押すたびに音声自動送信（VOX）機能の有効/無効が切り替わります（Bluetooth®ヘッドセットが接続中または、ユーザーメニュー「音声自動送信（VOX）」が“本体マイク”または“外部マイク”に設定されている場合）。音声自動送信（VOX）機能が有効な時は、ディスプレイ上部に“🎙”アイコンが点灯します。

【SR730】MUTE（消音）

受信音をミュート（消音）することができます。
もう一度短押しするとミュートを解除します。

長押し：キーロック

キーやロータリースイッチをロックすることができます。もう一度長押しするとロックを解除します。

⑦ P2キー（⊟）（9ページ参照）

よく使う機能を登録しておくと、ワンタッチでアクセスすることができます。“短押し”と“長押し”で動作が異なる場合があります。

【工場出荷時設定】

長押し：　CUE機能

相手の無線機のアラームを鳴らして、緊急連絡や重要な用件の通知を行うことができます。

2回短押し：CUEミュートON

CUEを受信したときのアラーム音が鳴らなくなります。もう一度2回短押しすると、再びアラーム音が鳴るようになります。

◎ 各種設定を行っているときに短押しすると、設定を確定します。
◎ 押しながら電源を入れると“拡張機能”画面になります。

⑧ マイク

マイクと口元の間隔は5cm位が適当で、普通の大きさの声で話します。

⑨ スピーカー

⑩ リチウムイオンバッテリー

⑪ LEDインジケータ

通信モードや状態などにより点灯または点滅します。

LED インジケータの色・状態	通信（動作）状態
緑色・点滅	通信受信中
青色・点滅	秘話通信受信中
赤色・点灯	送信中
赤色・点滅	バッテリーが空になったとき (LOW BATT 表示)

⑫ MIC/SP端子 （76ページ参照）

スピーカーマイクなどのオプションを接続します。

⑬ フルドットディスプレイ

⑭ 設定キー

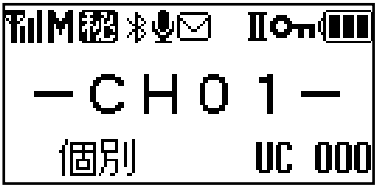
◎“簡易設定”画面になります。

◎ 個別通信のときに約2秒以上押すと、個別通信に関する“簡易設定”画面になります。

⑮ ノイズキャンセリングマイク

周囲の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信するために設けられています。この穴は塞がないようにしてください。

フルドットディスプレイ



← アイコン表示部

← チャンネル / モード等表示部

← ユーザーコード /
個別選択呼出コード等表示部

	アンテナ（電界強度表示 / 送信出力表示） 受信時：受信している電波の強さに応じて４段階で表示します。 送信時：送信出力を下記の３段階で表示します。 ：High（5W 出力） ：Mid（2.5W 出力） ：Low（1 W出力）	
M L	**送信出力** 送信出力を表示します。 **非表示**：High（5W 出力）（アイコンは表示されません） **M**： Mid（2.5W 出力） **L**： Low（1 W出力）	
秘	秘話 秘話通信機能がオンのときに表示します。	
	Bluetooth® Bluetooth® 機能がオン（接続中）の時に点灯します。	
	VOX VOX 機能がオンの時に点灯します。	
	メッセージ メッセージ送信中 / 受信中に点灯します。	
II	**セカンダリ PTT チャンネル** セカンダリ PTT の操作が有効な時に表示します。	
	キーロック 設定されたキーやロータリースイッチがロックされているときに表示します。	
	バッテリー残量 リチウムイオンバッテリーの残量を表示します。 電池マークが点滅し LED インジケータが赤色に点滅した時は、直ちに充電を行ってください。	：十分使えます ：まだ使えます ：残りわずかです ：空になりました ：すぐに充電してください（点滅）

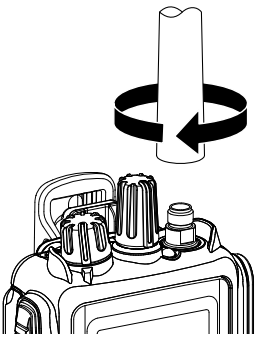
	待受受信機能が動作中に PTT を押すと、その時のチャンネルに交信相手も自動で移動する機能が ON のときに表示します。
	マルチチャンネル待受機能 待受受信の対象チャンネルを選択しているときに表示します。 待受受信機能が動作中は点滅します。
	ユーザーコード 設定している 3 桁のユーザーコード(000 ～ 511)を表示します。
	個別呼出 個別通信の個別呼出に設定しているときに点灯します。
	グループ呼出 個別通信のグループ呼出に設定しているときに点灯します。
	一斉呼出 個別通信の一斉呼出に設定しているとき点灯します。

メモ

準備

アンテナの取り付け

アンテナのコネクタに近い太い部分を持ち、時計回りにしっかりと止まるまでまわします。



注意

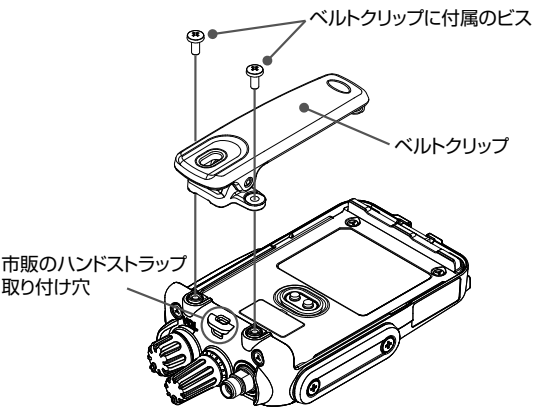
・アンテナの取り付け / 取り外し時には、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナ内部で断線して故障することがあります。

・アンテナを外した状態で送信しないでください。送信回路が破損することがあります。

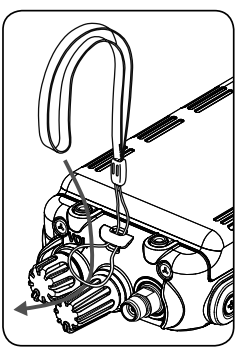
ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップに付属しているビス 2 本で、ベルトクリップを取り付けます。

注意 ベルトクリップの取り付け / 取り外し時は、リチウムイオンバッテリーやアルカリ単 4 形乾電池ケースは外してください。



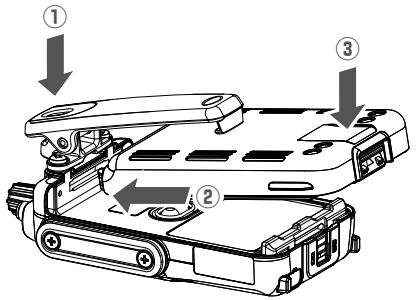
市販のハンドストラップの取り付け

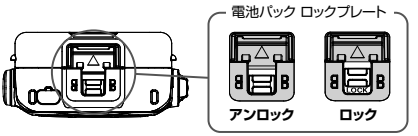


リチウムイオンバッテリーの取り付け / 取り外し

リチウムイオンバッテリーを取り付ける

1. ベルトクリップを取り付けている場合は、ベルトクリップを上げます。
2. リチウムイオンバッテリーの底面を押しながらスライドさせます。
3. リチウムイオンバッテリーの背面を押して、「カチッ」と音がするまで確実に押します。
4. 無線機本体の底面にあるロックプレートを「カチッ」と音がするまで確実にロックの位置にスライドさせます。

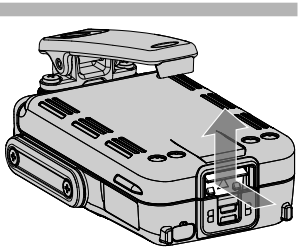




注意 ロックプレートを確実にロックしていないと、落下事故や故障の原因になります。

リチウムイオンバッテリーを取り外す

1. 無線機本体の底面にあるロックプレートを「カチッ」と音がするまでアンロックの位置にスライドさせます。
2. リチウムイオンバッテリー底面のラッチを指で摘まみながら、リチウムイオンバッテリーを引き上げます。



注意
- ロックやラッチを外す時は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。
- ベルトクリップを取り付けている場合は、ベルトクリップを上げながらリチウムイオンバッテリーを引き上げてください。
- 無線機やリチウムイオンバッテリーを落下させないよう、十分に注意してください。

リチウムイオンバッテリーの充電方法

急速充電器（**SBH-34**）を使用して、リチウムイオンバッテリーを充電します。

リチウムイオンバッテリー充電時間

	薄型リチウムイオンバッテリー **SBR-31LI**	標準型リチウムイオンバッテリー **SBR-33LI**	大容量リチウムイオンバッテリー **SBR-34LI**
充電時間※	約 2 時間	約 2.5 時間	約 4 時間

※リチウムイオンバッテリーを使い切った場合の充電時間の目安です。

注意 リチウムイオンバッテリーは“+5℃～ +35℃”の温度範囲内で充電してください。この温度範囲以外で充電すると、漏液や発熱したり、電池の性能や寿命を低下させる原因になります。

補足 リチウムイオンバッテリーをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

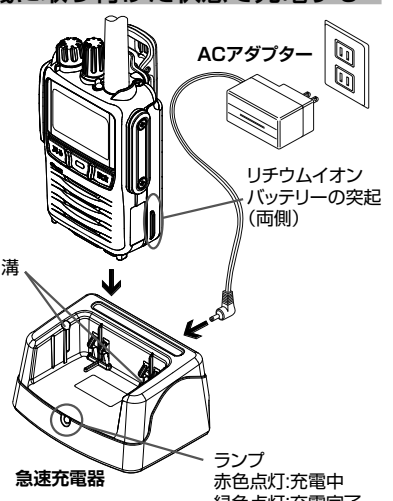
リチウムイオンバッテリーを無線機に取り付けた状態で充電する

1. 急速充電器（**SBH-34**）と付属の AC アダプターを接続します（右図参照）。
2. 無線機の電源を切って急速充電器に挿し込みます。急速充電器の赤色のランプが点灯し、充電を開始します。

補足 リチウムイオンバッテリーの突起を急速充電器の内側の溝にあわせて差し込みます。

3. 充電が完了するとランプは赤色から緑色に変わります。

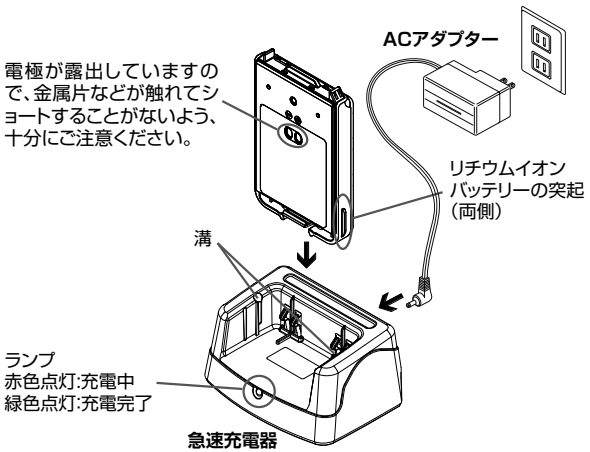
注意 長時間充電したままにしておくと、リチウムイオンバッテリーを劣化させることがあります。



4. 充電が完了したら無線機を急速充電器から取り外し、AC アダプターをコンセントから外してください。

リチウムイオンバッテリー単体で充電する

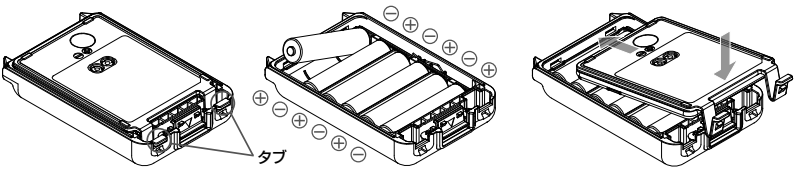
○ リチウムイオンバッテリーの突起を急速充電器の内側の溝にあわせて挿し込みます。急速充電器の赤色のランプが点灯して充電を開始します。
○ 充電が完了するとランプは赤色から緑色に変わります。



アルカリ乾電池ケースの使いかた

オプションのアルカリ乾電池ケース（**SBT-16**）を使うと、単４形アルカリ乾電池６本を無線機の電源として使用できます。

1. 乾電池ケース裏側のフタのタブを押して、フタを開けます。
2. 電池の極性に注意して、単４形アルカリ乾電池６本を乾電池ケースに入れます。
3. フタの突起を乾電池ケース上部の穴に入るように押し当てます。
4. フタの下部を押して、“カチッ”と音がして両方のタブがロックするまで押します。



注意 アルカリ乾電池ケース（**SBT-16**）を使用している場合、送信出力は自動的にLow（1W）に固定され、送信出力を変更することはできません。

補足
- マンガン乾電池は使用できません。また、充電式の単４形電池も使用できません。
- 新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄や種類の異なる電池などを混ぜて使用しないでください。乾電池が漏液、発熱、破裂するおそれがあります。
- 長時間本機を使用しない場合は、乾電池ケースから乾電池を取り外してください。
- 乾電池ケースの端子や電極が汚れていると、接触不良で本機が正しく動作しなくなったり、発熱や破裂などの原因となります。端子や電極が汚れた場合は、乾いた布や綿棒で清掃してください。

電池の消耗について

電池が消耗すると、ディスプレイの電池マーク（電池残量表示）が右記のように変化します。

十分使えます

まだ使えます

残りわずかです

空になりました

すぐに充電してください

ローバッテリーアラート機能

電池が空になると電池マークが点滅し LED インジケータが赤色に点滅します。その時は直ちに充電を行ってください。

電池持続時間※

リチウムイオンバッテリー / アルカリ乾電池ケース	送信出力		
	High（5W）	Mid（2.5W）	Low（1W）
薄型リチウムイオンバッテリー **SBR-31LI**（1200mAh）	約 9 時間	約 12 時間	約 15 時間
標準型リチウムイオンバッテリー **SBR-33LI**（1900mAh）	約 16 時間	約 21 時間	約 26 時間
大容量リチウムイオンバッテリー **SBR-34LI**（3350mAh）	約 27 時間	約 36 時間	約 44 時間
アルカリ乾電池ケース **SBT-16**	ー	ー	約 6 時間

※ 電池持続時間は、送信（5W）：受信：待受＝ 5：5：90 の割合で運用時（バッテリーセーブ機能オン、Bluetooth® 機能オフ）

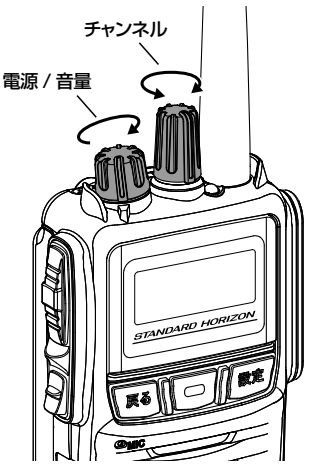
※ 使用条件や周囲の温度により、使用できる時間が異なることがあります（特に寒冷地では使用時間が短くなります）。

※ アルカリ乾電池の製造元や種類によって、使用できる時間が大きく異なることがあります。

基本的な使いかた

① 電源を入れます

VOL ツマミを右にまわして電源を入れて、相手の音声が聞きやすい音量に調節します。
お買い上げ後初めて電源を入れたときは、Bluetooth® の設定画面が表示されますので、“Bluetooth® の設定”（6 ページ）を参照して設定してください。



② チャンネルをあわせます

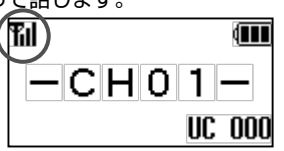
ロータリースイッチをまわして通話したい相手と同じチャンネル（CH01 ～ CH82）にあわせます。

補足 “CH01”（または使用チャンネルに設定した最も小さい番号のチャンネル）にあわせた時に「ププ」とビープ音が鳴ります。無線機を腰につけている状態などでも表示を確認せずに、簡単にチャンネル選択をすることができます。

③ 送信（通話）します

PTT（通話）ボタンを押しながら、マイクに向かって話します。

補足
- 送信中は “Tx” （送信出力が “High” 時）が表示され、LED インジケータが赤色に点灯します。
- 送信出力は “5W”、“2.5W”、“1W” に切り替えることができます（39 ページ参照）。

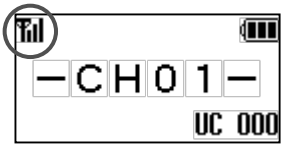


補足 連続送信時間は５分未満と決められています。本機では送信を開始してから約４分 45 秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から５分が経過する前に、自動的に送信が止まります（38 ページ参照）。

④ 相手の音声を受信します

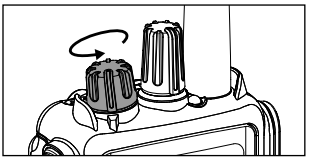
PTT（通話）ボタンを放すと、相手の話を聞くことができます。

補足 信号を受信すると LED インジケータが点滅し（18 ページ参照）、電波の強さに応じて、ディスプレイに “Rx ～Tx” が点灯します。



⑤ 電源を切ります

VOL ツマミを「カチッ」と音がするまで左にまわします。

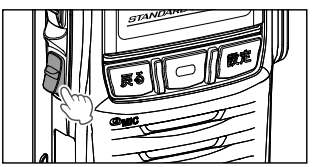


補足 長時間使用しない場合は、リチウムイオンバッテリーが消耗しないように、無線機の電源を切ってリチウムイオンバッテリーを取り外して保管してください。

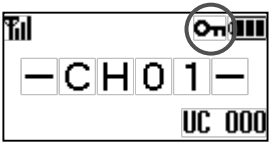
キーロック機能

誤って各キーを押しても、設定が変わらないようにキーをロックできます。

① 本体側面の **P1** キー（工場出荷時設定）を長押しします。
ディスプレイに “ ” が点灯します。
ロック中にキーを押した時は “ロック中” と表示します。



補足 セットメニューの「F07 キーロック」（63 ページ参照）でロックするキーを変更することができます。



② キーロックを解除するには再度、**P1** キーを長押しします。
ディスプレイの “ ” が消えます。

通信方式について

SR740/SR730 は「UC(ユーザーコード) 通信」と「個別通信」の二通りの通信方式に対応しています。初期値（工場出荷時設定）は UC 通信に設定されています。コールメニュー「C01 通信方式（D)」（73 ページ参照）で、通信相手と同じ通信方式に設定してご使用ください。

◎ UC（ユーザーコード）通信（31 ページ参照）
同じチャンネルで同じユーザーコードを設定している局同士が通話できる通信方式

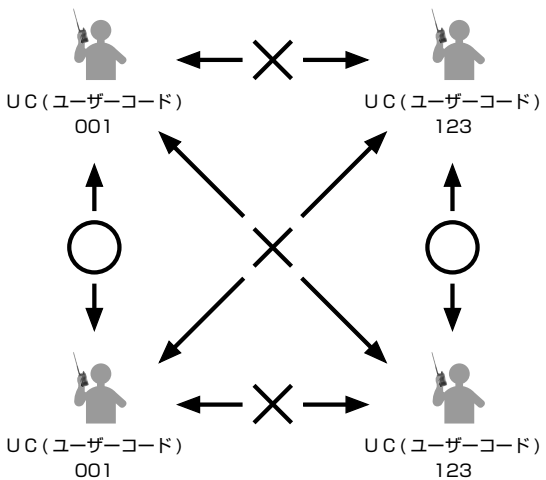
◎ 個別通信（33 ページ参照）
同じチャンネルで同じユーザーコードを設定している局の中から、特定の相手局やグループだけを呼び出して通話できる通信方式

◎ CH 毎
チャンネルごとに UC（ユーザーコード）通信、個別通信を設定することができます。

UC（ユーザーコード）通信

ＵＣ通信は同じチャンネルにあわせている局で、かつ同じ UC（ユーザーコード）を設定している局同士だけが通話することができる通信方式です。
UC 通信方式は、ARIB 規格で規定されており、種別コード「3R 3T」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。

ユーザーコード通信のイメージ



◎ ユーザーコードとは
ユーザーコードは数字３桁で、“000” ～ “511” の中から設定することができます。

補足

・ユーザーコード “000” は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる信号も受信できますが、送信時は “000” を設定している相手としか通信することができません。
・本機の UC（ユーザーコード）は、初期値では “000” に設定されています。
・他ユーザーとの混信を避けるため、UC（ユーザーコード）は “000” 以外に設定することをお勧めします。

UC（ユーザーコード）通信の設定方法

UC（ユーザーコード）通信に使用するユーザーコードを“000”～“511”の中から設定します。ユーザーコードが異なる局とは交信することができませんので、必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください。

補足 ディスプレイの下に“個別”“グループ”“一斉”のいずれかが表示されている場合は“個別通信”になっていますので、コールメニュー「C01 通信方式（D）」で“UC 通信”に設定してください（73 ページ参照）。

1. 電源を入れて、相手局と同じチャンネルにあわせます。
2. ディスプレイ右下に表示されているユーザーコードがすべての相手局と同じになっていることを確認します。

ユーザーコードの変更の必要がない場合は、以下の３～８の操作は不要です。

3. [設定] キーを押して簡易設定画面を表示させます。
4. ロータリースイッチをまわして「ユーザーコード」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
5. ロータリースイッチをまわして数字を選択します。
   ユーザーコードは“000”～“511”を設定できます。

6. [▭]（決定）キーを押すと、選択できる桁が右に移動します。
   手順５と６の操作を繰り返して３桁のユーザーコードを入力します。
7. ３桁目の数字を選択して [▭]（決定）キーを押すと、設定が保存されます。
8. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。
   以上で UC 通信の設定は終了です。

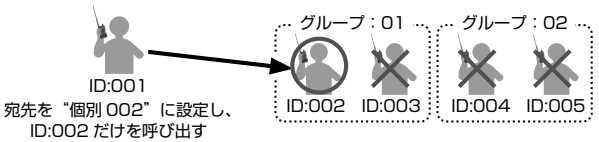
PTT（通話）ボタンを押して、同じチャンネルで同じ UC（ユーザーコード）に設定した局と通話できます。

個別通信

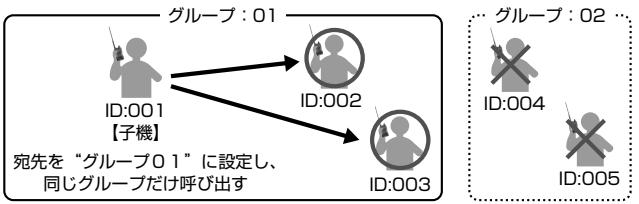
個別通信では特定の相手だけを呼び出すことや特定のグループに属する全員を呼び出す、また全ての局を一斉に呼び出して通話をすることができます。

個別通信のイメージ

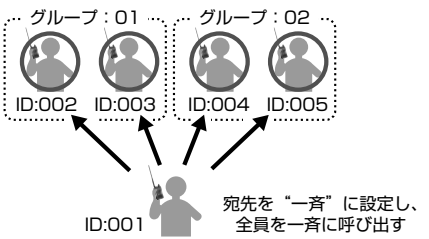
◎ 特定の相手だけを呼び出す（個別呼出）



◎ 特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）



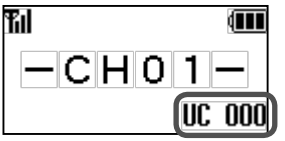
◎ 全員を一斉に呼び出す（一斉呼出）



個別通信の準備

補足 ディスプレイの下に“個別”“グループ”“一斉”のいずれかが表示されていない場合は UC 通信方式になっていますので、コールメニュー「C01 通信方式(D)」で“個別通信”に設定してください（73 ページ参照）。

1. 電源を入れて、相手局と同じチャンネルにあわせます。
2. ディスプレイ右下に表示されているユーザーコードがすべての相手局と同じになっていることを確認します。



ユーザーコードの変更については、“UC（ユーザーコード）通信の設定方法”（32 ページ参照）を参照してください。

補足
- 本機の UC（ユーザーコード）は、工場出荷時設定では“000”です。
- 他のユーザーとの混信を避けるため、UC（ユーザーコード）は“000”以外に設定することをお勧めします。

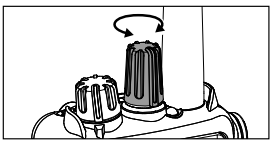
これで個別通信の準備は完了です。
個別通信の呼出方法（“個別呼出”、“グループ呼出”、“一斉呼出”）の設定については、次ページ以降を参照してください。

個別通信の呼び出し方法の設定

特定の相手を呼び出す（個別呼出）

呼び出したい特定の相手局の個別 ID を設定して、個別に呼び出します。

補足 コールメニュー「C04 自局ＩＤ(D)」で設定されている、自局 ID と同じ ID 番号を設定することはできません。



1. [設定] キーを長押しして“宛先 ID”を表示させます。
2. [▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして呼び出したい相手の個別IDを選択します。
4. [▭]（決定）キーを押すと、個別宛先ＩＤが確定されます。
5. [戻る]キーを押すと､チャンネル表示に戻ります。
   PTT（通話）ボタンを押して、個別呼び出しをして相手局と通話できます。

補足
- 相手からの応答がなく、応答待ち時間（5 秒間）が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。
- 応答するタイミングは、応答待ち時間以内に行ってください。
- 個別通信方式では、お互いに通話が終わった時からタイマーがスタートします。

特定のグループに属する全員を呼び出す（グループ呼出）

同じグループ内に属する全員を呼び出します。

グループの設定

1. 一度電源を切り [▭] キーを押しながら電源を入れ、拡張機能画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「コールメニュー」を選び、[▭]（選択）キーを押します。

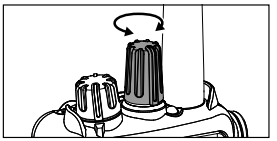
3. ロータリースイッチをまわして「C05 グループ ID（D)」を選び､[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして希望する“グループ ID”を選択し、[▭]（決定）キーを押すと設定が保存されます。
5. 電源を切ります。
   以上でグループ ID の設定は終了です。

PTT（通話）ボタンを押して、自グループを呼び出して通話できます。

全員を一斉に呼び出す（一斉呼出）

グループに関係なく全員を一斉（ALL）に呼び出します。

1. [設定] キーを長押しして“宛先 ID”を選び、[▭]（選択）キーを押します。
2. ロータリースイッチをまわして“一斉”を選択します。
3. [▭]（決定）キーを押すと確定されます。
4. [戻る]キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。
   PTT（通話）ボタンを押して、一斉呼び出しをして相手局と通話できます。



補足

・相手からの応答がなく、応答待ち時間（5 秒間）が経過すると、自動的に待機状態に戻ります。
・応答するタイミングは、応答待ち時間以内に行ってください。
・個別通信方式では、お互いに通話が終わった時からタイマーがスタートします。

呼び出しを受けたとき

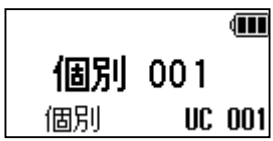
個別通信で呼び出しを受けると、相手局の ID と呼び出し方法（個別、グループ、一斉）が表示されます。

○ 個別呼び出しまたはグループ呼び出しを受けた時に、すぐに応答することができなかった場合“不在着信状態”となって、相手局の ID（名前）が点滅します。

○ 不在着信状態をキャンセルする場合は、[**戻る**] キーを押してください。

個別呼び出しを受けたとき

ディスプレイに呼び出してきた相手局の個別 ID が表示されます。受信中は LED インジケータが緑色または青色（秘話通信）に点滅します。
すぐに応答できなかった場合は、相手局の ID（名前）が点滅します。



応答する場合は、そのまま PTT（通話）ボタンを押すと相手を呼び出します。

グループ呼び出しを受けたとき

ディスプレイに呼び出してきたグループ ID が表示されます。受信中は LED インジケータが緑色または青色（秘話通信）に点滅します。

応答する場合は、そのまま PTT（通話）ボタンを押すとそのグループを呼び出します。

一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す“一斉”が表示されます。受信中は LED インジケータが緑色または青色（秘話通信）に点滅します。
応答する場合は、そのまま PTT（通話）ボタンを押すと一斉呼び出しをします。

通信時に動作する機能について

キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。送信禁止時に PTT（通話）ボタンを押すと、ディスプレイに“送信待機”が表示され、「ピピピッ」と警告音を発し送信することができません。
受信を示す LED インジケータが消えてから送信を開始してください。

補足 “送信待機”が表示されている状態で PTT（通話）ボタンを押し続けていると、受信している電波がなくなり次第、自動で送信状態になります。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARIB 規格により、送信ごとにキャリアセンスを行います。

通話中の「ピピピ」音（連続送信時間制限）

本機の連続送信時間は５分未満と決められています。本機では送信を開始してから約４分 45 秒後にアラームが「ピピピ」と鳴り、送信開始から５分が経過する前に、自動的に送信が止まります。そのまま PTT（通話）ボタンを押し続けた場合、送信を開始してから５分間経過すると、その後１分間は送信禁止状態になります。
アラームが鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

ヒートプロテクション（高温時の保護機能）

無線機が高温になっている場合に、PTT（通話）ボタンを押すとディスプレイに“HEAT”と表示され、自動的に送信出力が低下します。
さらに高温になった場合に PTT（通話）ボタンを押すと、ディスプレイに“HEAT”と表示され、LED インジケータが消灯し、警告音を発し続け送信することができません。無線機の温度が下がってから送信してください。

送信出力設定

送信出力を High(5W)/Mid(2.5W)/Low(1W) に切り換えることができます。相手との距離が近い場合などで、送信出力を下げてリチウムイオンバッテリーの持続時間を延ばすことができます。なお、オプションのアルカリ乾電池ケース(SBT-16)を使用している場合、送信出力は自動的に Low（1W）に固定され、この設定項目は表示されません。

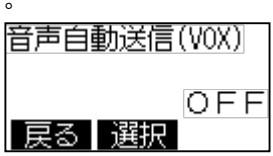
1. [設定] キーを押して、簡易設定画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして“送信出力”を選び、[▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして送信出力を選択します。
   High：5W
   Mid： 2.5W
   Low：1 W
4. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
5. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

補足 P1 キーまたは P2 キーに“送信出力”を設定すると、P1 キーまたは P2 キーを押して送信出力を変更できます（9 ページ参照）。

音声自動送信（VOX）機能

PTT（通話）ボタンを押さずに、音声により自動で無線機を送信状態にすることができます。マイクに向かって話すと送信し、話すのを止めると待ち受け状態に戻ります。

1. [設定] キーを押して、簡易設定画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして“音声自動送信（VOX）”を選び、[▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして下記から設定を選択して、[▭]（決定）キーを押すと、音声自動送信（VOX）が有効になります。



OFF：　音声自動送信 (VOX) 機能がオフになります。（工場出荷時設定）
本体マイク：無線機の内蔵マイクからの音声で自動で送信します。
外部マイク：無線機に取り付けたオプションの外部マイクからの音声で自動で送信します。
Bluetooth：無線機に接続したオプションの Bluetooth® ヘッドセットからの音声で自動で送信します。

補足 “本体マイク”または“外部マイク”に設定されている場合でも、SR740 に Bluetooth® ヘッドセットが接続されると、自動で Bluetooth® の音声自動送信（VOX）機能が有効になります。

必要に応じて、音声自動送信 (VOX) の感度を設定します。

4. ロータリースイッチをまわして“VOX 感度”を選び、[▭]（選択）キーを押します。
5. ロータリースイッチをまわして VOX 感度を“レベル 01”（感度低）～“レベル 15”（感度高）から選択して、[▭]（決定）キーを押します。（工場出荷時設定は“レベル 08”）
6. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻り、ディスプレイ上部に“ 🎙 ”アイコンが表示され、音声自動送信 (VOX) が“オン”になります。

補足
- 自動送信（VOX）が“本体マイク”または“外部マイク”、“Bluetooth”に設定されている場合に、P1 キー（SR740 の工場出荷時設定）を押す度に、音声自動送信 (VOX) 機能の有効 / 無効が切り替わります。
- 音声自動送信 (VOX) 機能が“ON”で送信状態の時に、音声自動送信 (VOX) 機能に設定した P1 キーまたは P2 キーを押すと、たとえ周囲の騒音などがあっても、必ず待ち受け状態に戻ります。

セミ VOX 機能

音声自動送信 (VOX) 機能がオンのときに周囲の騒音などで不用意に送信しないようにすることができます。自動で送信状態にはならずに、PTT（通話）ボタンを押すと送信状態になり、話をしている間は PTT（通話）ボタンを放しても送信を続け、話を止めると自動で待ち受け状態に戻ります。

1. [設定] キーを押して、簡易設定画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「セミ VOX」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして“ON”または“OFF”を選択して、[▭]（決定）キーを押します。（工場出荷時設定は“OFF”）

4. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻ります。

補足 セミ VOX 機能が“ON”で送信状態の時に、もう一度 PTT（通話）ボタンを押すと、たとえ周囲の騒音などがあっても、必ず待ち受け状態になります。

ミュート（消音機能）

P1 キーまたは P2 キーに“ミュート”機能を設定すると、P1 キーまたは P2 キーを押して一時的に音量をゼロにすることができます。（SR730 は、工場出荷時に P1 キーの短押しにミュート機能が設定されています。）ミュートを解除するには、もう一度ミュート機能を設定した P1 キーまたは P2 キーを押すか、または長押しします。ミュート機能の設定方法は、9 ページの「P1 キー /P2 キーに機能をプログラムする」を参照してください。

ローンワーカー（自動的に緊急モードが起動する機能）

一定時間送信（PTT）操作が行われなかった時に、あらかじめ“F08 緊急モード”で設定した緊急動作を自動的に起動することができます。

1. 「F08 緊急モード」（64 ページ参照）で、ローンワーカー機能で動作させたい緊急モードを設定します。
2. P1 キーまたは P2 キーに“ローンワーカー”機能を設定します（9 ページ参照）。
3. [設定] キーを押して、簡易設定画面を表示させます。
4. ロータリースイッチをまわして「ローンワーカー」を選び、[⊖]（選択）キーを押します。
5. ロータリースイッチをまわして、緊急動作を開始するまでの時間を選択します。
   5 分 /10 分 /15 分 /30 分 /60 分 /120 分から選択できます。
6. [⊖]（決定）キーを押します。
7. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻ります。
8. ローンワーカーを設定した P1 キーまたは P2 キーを押します。
   ローンワーカー機能が動作すると、一定時間 PTT 操作が行われないと、約 30 秒前に警告音が鳴り、その後設定した緊急動作を開始します。

補足 警告音が鳴っている最中に PTT を押すと、ローンワーカーが動作するまでのタイマーが“0”にリセットされます。

マンダウン

無線機が約 10 秒以上傾き（60 度以上）続けたり、約 10 秒以上静止状態が続くと、ディスプレイのチャンネルが点滅し、緊急アラームが鳴ります。その後あらかじめ“F08 緊急モード”で設定した緊急動作を自動的に起動することができます。無線機を腰等に取り付けた人が倒れたりすると、何らかの事故が発生したとみなし緊急アラームで知らせる機能です。

1. あらかじめ「F08 緊急モード」で、マンダウン機能で動作させたい緊急モードを設定しておきます（64 ページ参照）。
2. P1 キーまたは P2 キーに“マンダウン”機能を設定します（9 ページ参照）。
3. [設定] キーを押して、簡易設定画面を表示させます。
4. ロータリースイッチをまわして「マンダウン」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
5. ロータリースイッチをまわして、マンダウン機能の動作条件を選択します。

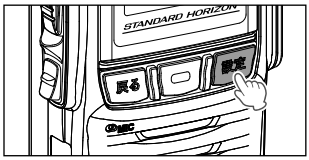
   転倒検出：無線機が 60 度以上傾いた状態が約 10 秒以上続いたとき。
   静止検出：無線機が約 10 秒以上静止状態が続いたとき。
   転倒 & 静止検出：無線機が 60 度以上傾いた状態が約 10 秒以上続き、さらに約 10 秒以上静止状態が続いたとき。
   転倒 or 静止検出：“転倒検出”または“静止検出”のどちらかの条件を満たしたとき。
   OFF：マンダウン機能は動作しなくなります。

6. [▭]（決定）キーを押します。
7. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻ります。
8. マンダウンを設定した P1 キーまたは P2 キーを押します。
   マンダウン機能が動作すると、あらかじめ設定したマンダウン開始の条件を満たすと、設定した緊急動作を開始します。

補足 アラームなどの緊急動作を停止するには、電源をオフにします。

簡易設定

チャンネル表示中に [設定] キーを押すと簡易設定画面が表示され、秘話機能、送信出力、音声自動送信（VOX）、Bluetooth® などの設定ができます。



無線機の設定や選択している通信チャンネルなどによって、一部の項目が表示されない場合があります。

項 目	設定値 （初期値：太字）	機 能	ページ
ユーザーコード	**000** ～ 511	ユーザーコードの設定	45
ライト禁止	**許可** / 禁止	ディスプレイ、[戻る] キー、[設定] キーの照明および LED インジケータの点灯を ON/OFF します。	46
秘話	**OFF**/ON	秘話機能を ON/OFF します。	46
秘話コード 《秘話 “ON” 時のみ》	00001 ～ 32767	秘話コードを設定します。	46
再生	–	自動で録音されている相手局の音声を再生します。	46
クイックアンサー	–	音声メッセージを再生 / 消去	47
ローンワーカー※1	**OFF**/5 分 /10 分 / 15 分 /30 分 / 60 分 /120 分	ローンワーカーが動作するまでの時間を設定します。	41
マンダウン※1	**OFF**/ 転倒検出 / 静止検出 / 転倒 & 静止検出 / 転倒 or 静止検出	マンダウン機能が動作する条件を設定します。	42
リモート PA※2	**OFF**/ON	リモート PA 機能を ON/OFF します。	15
待受受信	**OFF**/ON	UC コードが一致する信号を待ち受けします。	47
待受受信タイプ	**プログラム 1** / プログラム 2	待受受信機能動作時の待受受信方式を設定します。	48
待受受信 CH	–	待受受信タイプの “プログラム 1” および “プログラム 2” のそれぞれに、待受受信したいチャンネルを登録します。	48
待受受信指定 CH1	**CH01**～ CH82 未設定	待受受信での指定チャンネル 1 のチャンネルを設定します。	48
待受受信指定 CH2	**CH01**～ CH82 未設定	待受受信での指定チャンネル 2 のチャンネルを設定します。	48

項 目	設定値 (初期値：太字)	機 能	ページ
RX イコライザー	**OFF**/ 高域強調 / 中域強調	受信音の音質設定	49
TX イコライザー		送信音の音質設定	49
ノイズキャンセル	OFF/TYPE A/ **TYPE B**/ TYPE C	明瞭な音声を送信するノイズキャンセル機能の動作を設定します。	49
送信出力	**H**/M/L	送信出力を設定します。 H(5W)/M(2.5W)/L(1W)	39
音声自動送信（VOX）	**OFF**/ 本体マイク / 外部マイク / Bluetooth※	音声自動送信 (VOX) を設定します。	39
セミ VOX 《音声自動送信が動作時のみ》	**OFF**/ON	セミ VOX 機能を ON/OFF します。	40
VOX 感度 《音声自動送信が動作時のみ》	レベル 01 ～ **08** ～レベル 15	音声自動送信 (VOX) の感度を設定します。	49
メイン画面	**標準** / 大 / 特大 / 詳細	チャンネル表示画面の文字の大きさや表示内容を設定します。	50
Bluetooth 機能※3		Bluetooth® 機能を ON/OFF します。	50
Bluetooth 機器検索※4	–	Bluetooth® ヘッドセットを検索して接続します。	51
Bluetooth 登録機器一覧※4	–	登録済の Bluetooth® ヘッドセットを接続します。	51
Bluetooth 登録機器削除※4	–	登録済の Bluetooth® ヘッドセットを削除します。	51
Bluetooth マイク感度※4	-18 ～ -1/**0**/ +1 ～ +18	Bluetooth® のマイク感度を調節します。	51
Bluetooth セーブ※4	ON/**OFF**	Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を少なくします。	52
Bluetooth 初期化※4	–	Bluetooth® の設定だけを初期化します。	52
自局情報	–	UC、個別 ID、グループ ID を表示します。	52
無線機情報	–	現在使用しているチャンネルの周波数を表示します。	52

※ 1：セットメニュー“F08 緊急モード”を OFF 以外に設定時のみ
※ 2：セットメニュー“F28 セカンダリ PTT”の設定が“リモート PA”時のみ
※ 3：SR740 のみ
※ 4：Bluetooth®“ON”時のみ

以下の項目は、個別通信時に [設定] キーを長押しすると設定できます。

項 目	設定値 （初期値：太字）	機 能	ページ
宛先 ID	–	個別通信時に呼び出す相手を指定します。	53
アンサーバック	–	宛先 ID の相手局と通信が可能かどうかを確認するアンサーバック機能を使用します。	53
着信履歴	–	自局が以前に受信した宛先 ID の履歴を 10 件まで表示します。また、PTT（通話）ボタンを押して呼び返すことができます。	53
発信履歴	–	自局が以前に送信した宛先 ID の履歴を 10 件まで表示します。また、PTT（通話）ボタンを押して再度呼び出すことができます。	53
メッセージ送信	–	あらかじめ登録されたメッセージ（最大 10 件）の送信機能。	54
メッセージ確認	–	受信したメッセージの履歴を 10 件まで表示します。	54
リモート制御	–	指定した無線機に対し、リモート制御することができます。	54
コール動作	ON/**OFF**/ CH 毎	個別送信前に通知・問い合わせをするコール機能を設定します。	55
ARTS 動作	ON/**OFF**	定期的に発信される他の局からの情報を受信し、交信圏内圏外の表示を行います。	55
ロータリー動作	**チャンネル切替** / ID 切替	ロータリースイッチをまわした時の動作を設定します。	56

ユーザーコード

UC（ユーザーコード）通信に使用するユーザーコードを“000”～“511”の中から設定します。ユーザーコードが異なる局とは交信することができませんので、必ず相手局と同じユーザーコードに設定してください。

1. [設定] キー ➠「ユーザーコード」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして数字を選択します。
   ユーザーコードは“000”～“511”を設定できます。
3. [▭]（決定）キーを押すと、選択できる桁が右に移動します。
   手順 2 と 3 の操作を繰り返して 3 桁のユーザーコードを入力します。
4. 3 桁目の数字を選択して [▭]（決定）キーを押すと、設定が保存されます。
5. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

ライト禁止

ディスプレイ、[戻る] キー、[設定] キーの照明および LED インジケータの点灯を ON/OFF します。

1. [設定] キー ➠「ライト禁止」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“許可”（初期値）/“禁止”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

秘話通信機能

32,767 通りの秘話コードが一致する無線機どうしだけが交信することができる機能です。秘話機能を利用するには秘話コードの設定が必要です。秘話の通信を受信しているときは、LED インジケータが“青色”で点滅します。

秘話機能を ON/OFF する

1. [設定] キー ➠「秘話」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”（初期値は OFF）を選択します。
3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
   秘話機能をオフにするには、手順2で“OFF”を選択します。

秘話コードを設定する

1. [設定] キー ➠「秘話コード」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして秘話コードの数字を選択します。
   秘話コードは“00001”～“32767”の範囲で設定できます。
3. [▭]（決定）キーを押すと、秘話コードを選択できる桁が右に移動します。
   手順 2. と 3. の操作を繰り返して 5 桁のコード入力します。
4. 5桁目を設定して [▭]（決定）キーを押すと、秘話コードが確定されます。
5. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻り、ディスプレイ上側に“秘”が表示され、秘話機能が“オン”になります。

再生機能

無線機の電源を入れると、自動的に受信した音声を録音する機能が動作します。通話内容を聞き逃した時などに、内容を確認することができます。

1. [設定] キー ➠「再生」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして再生したい件名（1 件前～ 5 件前）を選択します。
3. [▭]（再生）キーを押すと、録音内容を再生します。

補足 最大 5 件まで録音され、5 件を超えると古い方から順番に上書きされます。

注意 電源を切ると、録音された内容は全て消去されます。

クイックアンサー機能

音声を発して応答できないような状況のときに使用する機能です。例としてあらかじめ「了解しました。後程応答します。」などの音声を録音しておき、P1 キーまたは P2 キーを押すと録音したメッセージが送信されます。

録音のしかた

1. [設定] キー ➠「クイックアンサー」を選択 ➠ [▭] キー
2. [▭]（実行）キーを押します。
   “録音中”と表示され録音を開始しますので、**PTT（通話）ボタンを押さずに**マイクに向かって録音したい内容を話します。
   録音中に [▭]（実行）キーを押すと、録音を停止します。

補足 録音時間は最大 30 秒で、録音件数は 1 件です。

録音内容の送信のしかた

クイックアンサー機能を設定した P1 キーまたは P2 キーを押します。
録音してある内容が送信されます。

ローンワーカー

41 ページの「ローンワーカー」を参照してください。

マンダウン

42 ページの「マンダウン」を参照してください。

リモート PA

15 ページの「リモート PA（拡声器）機能」を参照してください。

待受受信機能

セットメニュー「F29 待受受信タイプ」で設定したチャンネルをスキャンして、UC コードが一致する信号を待ち受けすることができます。

1. [設定] キー ➠「待受受信」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”を選択します。
3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻り、ディスプレイ左下に“■”が点滅表示され、待受受信機能が有効になります。
   待受受信機能は一度電源を切り入れ直しても、動作を継続します。待受受信機能を無効にするには、手順2で“OFF”を選択します。

補足 P1 キーまたは P2 キーに“待受受信”を設定すると、P1 キーまたは P2 キーを押して待受受信機能の ON/OFF ができます。

待受受信タイプ

待受受信動作時の待受受信対象チャンネルが登録されたリストを選択します。

1. [設定] キー ➠「待受受信タイプ」を選択 ➠ [⊖] キー
2. ロータリースイッチをまわして“プログラム 1”または“プログラム 2”を選択します。
   待受受信したい複数のチャンネル（待受受信チャンネル）をあらかじめ“プログラム 1”または“プログラム 2”に設定し、設定した複数のチャンネルを自動的に切り替えてモニターしながら待ち受けします。
3. [⊖]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

待受受信 CH

待受受信タイプの“プログラム 1”および“プログラム 2”のそれぞれに、待ち受けしたいチャンネルを登録します。

1. あらかじめ「待受受信タイプ」で、チャンネルを登録したいプログラム“プログラム 1”または“プログラム 2”を選択しておきます。
2. [設定] キー ➠「待受受信 CH」を選択 ➠ [⊖] キー
3. ロータリースイッチをまわして登録したいチャンネルを選択します。
   CH01 ～ CH82 の任意のチャンネルまたは、全チャンネルを選択できます。
4. [⊖]（決定）キーを押し、ロータリースイッチをまわして“ON”を選びます。
5. [⊖]（決定）キーを押します。
6. 手順 3. ～ 5. を繰り返して、登録したい全てのチャンネルの設定を“ON”にします。
7. [戻る] キーを 2 回押すと、チャンネル表示に戻ります。
   待受受信登録されたチャンネルでは、ディスプレイ左下に“■”が表示されます。

待受受信指定 CH1 / 待受受信指定 CH2

セットメニュー「F30 待受受信 PTT」（69 ページ参照）で“指定ＣＨ１”または“指定 CH2”に設定した場合に、セカンダリ PTT を押した時に送信するチャンネルを設定します。

1. [設定] キー ➠「待受受信指定 CH1」または「待受受信指定 CH2」を選択 ➠ [⊖] キー
2. ロータリースイッチをまわして登録したいチャンネルを選択します。
3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

RX イコライザー機能

受信音を好みの音質に変更することができます。

1. [設定] キー ➠「RX イコライザー」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして希望の音質を選択します（初期値 “OFF”）。

   OFF/ 高域強調 / 中域強調

3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

TX イコライザー機能

送信音を好みの音質に変更することができます。

1. [設定] キー ➠「TX イコライザー」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして希望の音質を選択します（初期値 “OFF”）。

   OFF/ 高域強調 / 中域強調

3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

ノイズキャンセル機能

送信時に周辺の騒音を抑えて、明瞭な音声を送信するノイズキャンセル機能を設定します。

1. [設定] キー ➠「ノイズキャンセル」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして “TYPE A”、“TYPE B”（初期値）、“TYPE C”、“OFF” を設定します。

   TYPE A ～ C から、周囲の状況にあった最も効果的なタイプを選択します。

3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

送信出力

39 ページの「送信出力設定」を参照してください。

音声自動送信（VOX）

39 ページの「音声自動送信（VOX）機能」を参照してください。

セミ VOX

40 ページの「セミ VOX 機能」を参照してください。

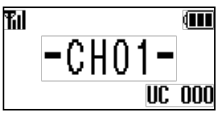
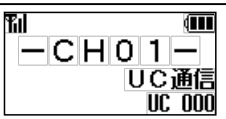
VOX 感度

39 ページの「音声自動送信（VOX）機能」を参照してください。

メイン画面

チャンネル表示画面の表示方法を選択できます。

1. [設定] キー ➠「メイン画面」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして、希望の表示方法を選択します。

標準（初期値）	
大	
特大	
詳細	

3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

Bluetooth® 機能（SR740 のみ）

6 ページの「購入後に初めて電源を入れた時」も併せて参照してください。

SR740 の Bluetooth® 機能を設定します。ヘッドセットの検索、登録のほか、登録済ヘッドセットの一覧表示や削除、マイク感度、セーブ機能、設定の初期化などができます。

Bluetooth® 機能の ON/OFF

1. [設定] キー ➠「Bluetooth」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”（初期値）を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。
4. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

Bluetooth 機器検索（Bluetooth® 機能が“ON”時のみ）

1. [設定] キー ➠「Bluetooth」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして「機器検索」を選択します。
3. [▭]（実行）キーを押します。
   Bluetooth® ヘッドセットの検索が始まります。
4. 接続する Bluetooth® ヘッドセットを操作して、ペアリングモードにします。
   Bluetooth® ヘッドセットが見つかると、Bluetooth® ヘッドセットの名称と接続確認画面が表示されます。
5. 表示されたヘッドセットと接続する場合は、[▭]（選択）キーを押します。
6. [戻る] キーを2回押すと、チャンネル表示に戻ります。

補足
- 合計 8 台までの Bluetooth® 機器を登録できますが、本製品と Bluetooth® 機器を 1 対 1 の組み合わせで設定されることをおすすめします。
- 2023 年 8 月現在、動作の保証をしている Bluetooth® 機器は、SSM-BT10 です。

Bluetooth 登録機器一覧（Bluetooth® 機能が“ON”時のみ）

1. [設定] キー ➠「Bluetooth」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして「登録機器一覧」を選択します。
3. [▭]（実行）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして接続するヘッドセットを選び、[▭]（決定）キーを押します。
   SR740 と Bluetooth ヘッドセットが接続されると、ディスプレイ上部に Bluetooth アイコン“ᛒ”が表示されヘッドセットを使うことができます。

補足 Bluetooth® ヘッドセットで音声自動送信 (VOX) 機能を使うには、「音声自動送信 (VOX)」（39 ページ参照）の設定を“Bluetooth”にします。

Bluetooth 登録機器削除（Bluetooth® 機能が“ON”時のみ）

1. [設定] キー ➠「Bluetooth」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして「登録機器削除」を選択します。
3. [▭]（実行）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして登録を削除するヘッドセットを選択して [▭](削除）キーを押します。
5. [戻る] キーを2回押すと、チャンネル表示に戻ります。

Bluetooth のマイク感度を調節する（Bluetooth 機能が“ON”時のみ）

1. [設定] キー ➠「Bluetooth」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして「マイク感度」を選択します。
3. [▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわしてヘッドセットからの音声のマイク感度を調節（“− 18”～“+18”、工場出荷時設定は“0”）して [▭]（選択）キーを押します。
5. [戻る] キーを2回押すと、チャンネル表示に戻ります。

Bluetooth のセーブ機能を設定する（Bluetooth® 機能が“ON”時のみ）

Bluetooth® ヘッドセットのバッテリー消費を少なくすることができます。

注意 Bluetooth® の音声自動送信（VOX）機能が有効になっている場合は、セーブ機能を“ON”に設定しても、セーブ機能は動作しません。

1. [設定] キー ➠「Bluetooth」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして「セーブ」を選択します。
3. [▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして“ON”または“OFF”を選び、[▭]（選択）キーを押します。（工場出荷時設定は“OFF”）
5. [戻る] キーを2回押すと、チャンネル表示に戻ります。

補足
- セーブ機能は、約 5 秒間ヘッドセットの操作や送受信をしなかった場合に、ヘッドセットを一時的に休止状態にしてバッテリーの消費を減らす機能です。休止状態中にヘッドセットの操作や送受信を行うと休止状態は解除されます。
- 休止状態中に送信する場合は、送受信切り替えボタンを押してから音声が送られるまでに若干の時間を要するため、送受信切り替えボタンを押した後一呼吸おいてから話を始めてください。

Bluetooth の設定初期化（Bluetooth® 機能が“ON”時のみ）

Bluetooth に関する設定を初期化します。

1. [設定] キー ➠「Bluetooth」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして「初期化」を選択します。
3. [▭]（実行）キーを押します。
4. 確認画面が表示されますので、ロータリースイッチをまわして“YES”を選択します。
   初期化を中止するときは“NO”を選択して [▭] キーを押します。
5. [▭] キーを押します。
6. Bluetooth® の設定が初期化されます。
7. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

自局情報

無線機に設定してある UC（ユーザーコード）、個別 ID、グループ ID を表示させて確認することができます。

1. [設定] キー ➠「自局情報」を選択 ➠ [▭] キー
2. UC（ユーザーコード）、個別 ID、グループ ID が表示されます。
3. [戻る] キーを2回押すと、チャンネル表示に戻ります。

無線機情報

現在設定してあるチャンネルの周波数を表示させることができます。

1. [設定] キー ➠「無線機情報」を選択 ➠ [▭] キー
2. 周波数が表示されます。
3. [戻る] キーを2回押すと、チャンネル表示に戻ります。

宛先 ID（個別通信のみ）

35 ページの「特定の相手を呼び出す（個別呼出）」を参照してください。

アンサーバック（個別通信のみ）

個別通信時に宛先が個別 ID に設定している場合に、宛先 ID の相手局と通信ができるかどうかを確認することができます。

1. [設定] キーを長押しして簡易設定画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「アンサーバック」を選び、[▭]（実行）キーを押します。
   “問い合わせ中”が表示され、無線機が自動で問合せ信号を送信して通信が可能かどうかを確認します。
3. 相手局との交信が可能かどうかを画面に表示します。

   応答あり：【交信可能】相手局からの確認信号を受信したとき。
   応答無し：【交信不可】相手局からの確認信号を受信できないとき。
4. PTT（通話）ボタンを押して相手局と通信するか、[戻る] キーを 2 回押して周波数画面に戻ります。

着信履歴 / 発信履歴（どちらも個別通信のみ）

個別通信時に呼び出した相手局や、呼び出してきた相手局の ID の履歴をそれぞれ 10 件まで確認できます。

1. [設定] キーを長押しして、簡易設定画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「着信履歴」または「発信履歴」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
3. 着信履歴または発信履歴が表示されます。
4. ロータリースイッチをまわして履歴を選択することができます。
5. PTT（通話）ボタンを押すと表示している履歴の個別 ID を呼び出すことができます。

メッセージ送信（個別通信のみ）

あらかじめ登録されているメッセージ（最大 10 件）を送信することができます。

1. メッセージを送りたい相手を指定します（35 ページ参照）。
2. [設定] キー（長押し）➠「メッセージ送信」を選択 ➠ [▭] キー
3. ロータリースイッチをまわして、送信したいメッセージを選びます。
4. [▭]（送信）キーを押すと、メッセージが送信されます。
   相手局に正しくメッセージが送信完了すると、宛先と“応答あり”が表示されます。
   特定の相手だけを呼び出す個別呼び出しでは、電波が届かない、電源が切れている等で相手にメッセージが届かない場合は“応答無し”を表示します。
5. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

メッセージ確認（個別通信のみ）

受信したメッセージを、新しい順に最大 10 件まで表示することができます。

1. [設定] キー（長押し）➠「メッセージ確認」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして、確認したいメッセージを選びます。

補足 メッセージを削除したい場合は、削除したいメッセージを選択後、[▭]（選択）キーを押し、[▭]（削除）キーを押します。

3. [戻る] キーを２回押すと、チャンネル表示に戻ります。

リモート制御（個別通信のみ）

指定した無線機に対し、下表の操作をすることができます。

1. リモート制御したい相手を指定します（35 ページ参照）。
2. [設定] キー（長押し）➠「リモート制御」を選択 ➠ [▭] キー
3. ロータリースイッチをまわして、機能を選びます。

機能	動作
モニター	指定した無線機の周辺の音を聞くことができます。
ロック	指定した無線機を操作できないようにロックします。
パスワードロック	指定した無線機を操作できないようにロックします。ロックされた無線機は、あらかじめ決めておいたパスワードを入力することで、ロックを解除できます。
ロック解除	“ロック”“パスワードロック”を解除します。
アラーム ON	指定した無線機のスピーカーから、アラームを鳴らします。
アラーム OFF	鳴らしたアラームを停止します。

4. [▭]（実行）キーを押すと、指定した無線機に対し、制御動作を行います。
   正しく制御操作が行われると、宛先と“応答あり”が表示されます。
   電波が届かない、電源が切れている等で制御できなかった場合は“応答無し”を表示します。
5. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

コール動作（個別通信のみ）

個別通信にて個別呼び出しを行う際に、相手局に問い合わせをする機能で、PTT 短押しで相手局への呼び出しを開始し、通話圏内に相手局がいた場合は、呼び出し元、呼び出し先双方で呼び出し音が鳴ります。呼び出しを受けた側は呼び出し音が鳴っている間に PTT を押下し通話を開始します。
相手局が圏外であった場合は“応答無し”となり、呼び出すことはできません。
PTT 長押しで呼び出しをすることなく、送信することができます。

1. 一度電源を切り [▭] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「コールメニュー」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして「C13 コールモード」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして“ON”または“CH 毎”を選び、[▭]（決定）キーを押します。
   ON： 全てのチャンネルでコール機能が動作します。
   CH 毎： 動作を ON にしたチャンネルのみでコール機能が動作します。
   OFF： コール機能は動作しません。
5. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。
6. [設定] キーを長押しします。
7. ロータリースイッチをまわして“コール動作”を選び、[▭]（選択）キーを押します。
8. ロータリースイッチをまわして“ON”を選び、[▭]（決定）キーを押します。
9. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻り、コール機能が動作します。

ARTS 機能（個別通信のみ）

定期的に発信される他の局からの情報を受信し、交信圏内圏外の表示を行います。

ARTS 機能を“ON”にしたチャンネルに合わせると、自動で ARTS 機能が動作し、相手局からの ARTS 信号を受信すると画面に“ログイン”が表示されます。
約 2 分間相手局からの ARTS 信号を受信できない場合（交信圏外の場合）は、画面に“ログアウト”が表示されます。

ARTS 機能を ON/OFF する

1. ARTS 機能を動作させたいチャンネルにあわせます。
2. [設定] キーを長押しします。
3. ロータリースイッチをまわして“ARTS 動作”を選び、[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして“ON”を選び、[▭]（決定）キーを押します。
5. [戻る] キーを押すとチャンネル表示に戻り、ARTS 機能が動作します。

現在ログインされている局を確認することができます。

1. [設定] キーを長押しします。
2. ロータリースイッチをまわして“ARTS”を選びます。
   現在ログインされている局数が表示されます。
3. [▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわすとログインしている局を選択できます
5. [戻る] キーを 2 回押すとチャンネル表示に戻ります。

ロータリー動作（個別通信のみ）

ロータリースイッチをまわした時の動作を設定します。

1. [設定] キー（長押し）➠「ロータリー動作」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして、ロータリースイッチをまわしたときの動作を選びます。

   チャンネル切替：チャンネルを切り替えます。
   ID 切替：　　個別通信の ID を切り替えます。

1. [▭]（決定）キーを押します。
2. [戻る] キーを押すと、チャンネル表示に戻ります。

セカンダリ PTT 機能

P1 キーまたは P2 キーに“セカンダリ PTT”機能を設定すると、P1 キーまたは P2 キーを押すとあらかじめセカンダリチャンネルに設定したチャンネルで送信することができます。

1. あらかじめセットメニューの「F35 P1 キー短」または「F37 P2 キー短」のどちらかに“セカンダリ PTT”機能を設定します。
   セカンダリ PTT 機能が有効なときは、ディスプレイに“Ⅱ”アイコンが表示されます。
2. “セカンダリ PTT”機能を設定した P1 キーまたは P2 キーを押している間、セカンダリチャンネルに設定したチャンネルに切り替わり送信します。

PTT ホールド機能

PTT（通話）ボタンおよびセカンダリ PTT を、一度押すと放しても送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻る動作に変更することができます。

1. 一度電源を切り [▭] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「セットメニュー」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして「F23 PTT ホールド」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして“ON”を選び、[▭]（決定）キーを押します。（工場出荷時設定は“OFF”）
5. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

UC ベル機能（UC 通信のみ）

UC 通信時に UC（ユーザーコード）が一致する相手局からの呼び出しを受けた場合に、ビープ音（1 ～ 3 回）を鳴らして知らせる機能です。

1. 一度電源を切り [▭] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「コールメニュー」を選び、[▭]（選択）キーを押します。

3. ロータリースイッチをまわして「C06 UC ベル」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして“0 回”～“3回”を選び、[▭]（選択）キーを押します。（工場出荷時設定は“0回”）
5. ロータリースイッチをまわして、ビープ音タイプ“A”～“M”を選び、[▭]（選択）キーを押します。（工場出荷時設定は“A”）
6. ロータリースイッチをまわして、バイブレータの“ON”/“OFF”を選び、[▭]（決定）キーを押します。（工場出荷時設定は“OFF”）
7. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

個別ベル / グループベル（個別通信のみ）

個別通信時に個別 ID またはグループ ID が一致する相手局からの呼び出しを受信したときにビープ音（1 ～3回）を鳴らすことができます。

1. 一度電源を切り [▭] キーを押しながら電源を入れて“拡張機能”画面を表示させます。
2. ロータリースイッチをまわして「コールメニュー」を選び、[▭]（選択）キーを押します。

3. ロータリースイッチをまわして「C07 個別ベル」または「C08 グループベル」を選び、[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして“0 回”～“3回”を選び、[▭]（選択）キーを押します。（工場出荷時設定は、個別ベル“1 回”、グループベル“0回”）
5. ロータリースイッチをまわして、ビープ音タイプ“A”～“M”を選び、[▭]（選択）キーを押します。（工場出荷時設定は、個別ベル“B”、グループベル“A”）
6. ロータリースイッチをまわして、バイブレータの“ON”/“OFF”を選び、[▭]（決定）キーを押します。（工場出荷時設定は“OFF”）
7. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

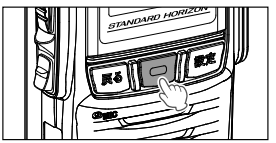
拡張機能

拡張機能には“セットメニュー”（60 ページ参照）と“コールメニュー”（72 ページ参照）があり、無線機の各種設定、通信関係の設定などを行うことができます。

機能拡張メニューの基本的な操作方法

機能拡張メニューの基本的な操作方法について説明します。

1. 機能拡張メニューを表示させます。
   [▭] キーを押しながら、[VOL] ツマミを右にまわして電源を入れます。



2. 設定するメニューを選択します。
   ロータリースイッチをまわして設定するメニューを選択して、[▭]（選択）キーを押します。

3. 設定項目を選択します。
   ロータリースイッチをまわして設定する項目を選択して [▭]（選択）キーを押します。
   設定値が点滅して表示されます。

4. 設定値を変更します。
   ロータリースイッチをまわして設定値を変更します。設定について詳しくは、各項目を参照してください。
   ※ [戻る] キーを押すと変更をキャンセルして 1 つ前の画面に戻ります。
5. 設定値を確定します。
   [▭]（決定）キーを押して設定を確定します。
6. 設定メニューを終了します。
   電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

セットメニュー

セットメニューでは無線機の各種設定ができます。

項 目	設定値（初期値：太字）	機 能
F01 ディマー	レベル 00 ～ **08** ～ 15	バックライトの輝度
F02 コントラスト	レベル 00 ～ **08** ～ 15	表示のコントラスト
F03 ビープレベル	連動（-8 ～**± 0** ～ +7） 固定（レベル 00 ～ **08** ～ 15） OFF	ビープ音量設定
F04 外部マイク感度	-18dB ～ **0dB** ～ +10dB	外部マイクの感度設定
F05 内部マイク感度	-18dB ～ **0dB** ～ +10dB	内蔵マイクの感度設定
F06 ロータリー	**チャンネル** /ID	ロータリースイッチの動作設定
F07 キーロック	ALL/PTT/ ロータリー / キー /**PTT 以外**	ロックするキーの設定
F08 緊急モード	**OFF**/ アラーム / 送信 / アラーム + 送信 / サイレント	緊急モード時の動作設定
F09 TX ビープ	**OFF**/ON	送信開始ビープ設定
F10 RX ビープ	**OFF**/ON	相手局の送信終了ビープ
F11 送信出力制限	**High 許可** /Mid 許可 / Low 固定 / 受信専用	最大送信出力の設定
F12 CH・UC 非表示	**常時表示** / 1 秒表示～ 60 秒表示	チャンネル番号および UC を表示する時間の設定
F13 送信中 CH・UC 非表示	**表示する** / 表示しない	F12 CH・UC 非表示の設定を“常時表示”以外にした時の、送信中のチャンネル番号および UC の表示設定
F14 受信時 CH・UC 非表示	**表示する** / 表示しない	F12 CH・UC 非表示の設定を“常時表示”以外にした時の、受信中のチャンネル番号および UC の表示設定
F15 弱電界アラーム	**OFF**/ アラームデフォルト / アラーム A ～アラーム M	受信信号が弱い場合のアラーム設定
F16 不在着信ベル	**OFF**/5 秒毎×2回 / 2秒毎 / 1分毎 / 連続	個別着信時に応答しなかった場合に鳴るベルの設定
F17 アンサーバック	OFF/**ON**	相手局に電波が届いているかを確認する機能の設定
F18 電池アラーム	OFF/**ON**	電池残量が少ない場合のアラーム設定
F19 CH ガイダンス	**OFF**/ 連動 / 固定	チャンネルの音声案内
F20 クイックアンサー	OFF/**ON**	音声メッセージ送信機能の設定

項 目	設定値（初期値：太字）	機 能
F21 ACC 電源	**OFF**/ON	側面の MIC/SP 端子に接続したオプションへの 5V 電源供給の設定
F22 オーディオ出力	**本体** / スピーカーマイク / イヤホン	オーディオの出力先設定
F23 PTT ホールド	**OFF**/ON	PTT ホールドの設定
F24 ワンタッチ VOL	**レベル 00** ～レベル 31	ワンタッチボリューム設定キー操作時の音量の設定
F25 CH 空き通知	**OFF**/ON	チャンネル空き通知の設定
F26 セミ VOX	**OFF**/ON	PTT 短押しで送信開始、音声入力が無くなると送信終了する機能の設定
F27 VOX 送信保持時間	OFF/0.2 秒～ **1 秒**～ 3 秒	VOX 送信状態から受信状態に戻るまでの遅延時間設定
F28 セカンダリ PTT	**待受受信時送信** / リモート PA/ 待受 + 固定 CH 送信 / 固定 CH 送信 / 使用しない	セカンダリ PTT の動作を設定します。
F29 待受受信タイプ	**プログラム 1**/ プログラム 2	待受受信方式の設定
F30 待受受信 PTT	ポジション CH/ **最終通話 CH**/AUTO/ 指定 CH1/ 指定 CH2	待受受信機能動作中の送信チャンネル設定
F31 待受受信 RX	**待受受信続行** / 待受受信終了	待受受信機能の着信後の待受受信の再開設定
F32 上空チャンネル	**OFF**/ モニター	上空用チャンネルの 15 チャンネル (CHS1 ～ CHS15) の受信可否設定。
F33 バッテリーセーブ	**OFF**/ON	間欠受信機能の設定
F34 自動電源 OFF	**OFF**/1 時間～ 8 時間	電源切り忘れ防止機能の設定
F35 P1 キー短	設定できる項目と初期値に関しては、9 ページの「P1 キー /P2 キーに機能をプログラムする」を参照してください。	P1 キーまたは P2 キーを押したときの機能、長押ししたときの機能設定
F36 P1 キー長		
F37 P2 キー短		
F38 P2 キー長		
F39 Mandown0 度設定	–	現在の無線機の傾きを 0 度に設定
F40 履歴リセット	–	着信、発信、メッセージ履歴の消去
F41 設定リセット	–	無線機のすべての設定の初期化。
F42 TX AGC	**OFF**/ON	ノイズキャンセリング機能を使用する時の設定

F01 ディマー

ディスプレイとキーのバックライトの明るさを調節します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F01 ディマー」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわしてバックライトの明るさ（レベル 00 ～ 15（初期値 08））を調節します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F02 コントラスト

ディスプレイ表示のコントラストを調節します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F02 コントラスト」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして表示のコントラスト（レベル 00 ～ 15（初期値 08））を調節します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F03 ビープレベル

ビープ音の音量を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F03 ビープレベル」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして設定するビープを選択して、[▭]（選択）キーを押します。

キービープ	キーを押したとき、ロータリースイッチをまわしたときのビープ音
起動ビープ	電源を入れたときのビープ音
通知ビープ	着信音のビープ音
警告ビープ	動作エラー時のビープ音

3. ロータリースイッチをまわして動作を選び [▭]（決定）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわして音量レベルを設定し [▭]（決定）キーを押します。

連動	-8 ～ +7（初期値**± 0**）	VOL ツマミに連動して、ビープ音の音量が変わります。レベルを変えることにより、連動するビープ音の音量を変えることができます。
固定	00 ～ 15（初期値 **8**）	VOL ツマミの位置に関係なく、設定した音量でビープ音が鳴ります。
OFF	−	ビープ音は鳴らなくなります。

5. [▭]（戻る）キーを押します。

F04 外部マイク感度

MIC/SP 端子に接続した外部マイクの感度を調節します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F04 外部マイク感度」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして外部マイクの感度（-18dB ～ +10dB（初期値 0dB））を調節します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F05 内部マイク感度

無線機に内蔵しているマイクの感度を調節します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F05 内部マイク感度」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして内部マイクの感度（-18dB ～ +10dB（初期値 0dB））を調節します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F06 ロータリー

ロータリースイッチの動作を“チャンネル切替”にするか“個別 ID 切替”にするかを設定します。

1. [▭]キー＋電源オン ➠ [▭]キー ➠「F06 ロータリー」を選択 ➠ [▭]キー
2. ロータリースイッチをまわして“チャンネル”（初期値）/ “ID”を設定します。

チャンネル（初期値）	チャンネルを変更します
ID	個別通信での ID を変更します

3. [▭]（決定）キーを押します。

F07 キーロック

キーロック時にロックするキーやロータリースイッチを選択することができます。

1. [▭]キー＋電源オン ➠ [▭]キー ➠「F07 キーロック」を選択 ➠ [▭]キー
2. ロータリースイッチをまわしてロックするキーなどを選択します。

ALL	キーロックに設定した P1 キー /P2 キー操作以外すべて
PTT	PTT（通話）ボタン（セカンダリ PTT を含む）のみ
ロータリー	ロータリースイッチのみ
キー	キーロックに設定した P1 キー /P2 キー操作以外のキー
PTT 以外（初期値）	PTT（通話）ボタン以外のキーとロータリースイッチ

3. [▭]（決定）キーを押します。

F08 緊急モード

緊急、ローンワーカー、マンダウンが動作した時の緊急動作を設定します。

1. [▭]キー＋電源オン ➠ [▭]キー ➠「F08 緊急モード」を選択 ➠ [▭]キー
2. ロータリースイッチをまわして緊急モードの動作を選択します。

OFF（初期値）	緊急動作は動作しません
アラーム	アラーム音が鳴ります
送信	自局の個別 ID を送信します
アラーム＋送信	アラーム音が鳴り、自局の個別 ID を送信します
サイレント	画面の表示を変えず、音も鳴らさずに緊急送信をします

3. [▭]（決定）キーを押します。

F09 TX ビープ

自局の送信開始時に鳴るビープ音を ON/OFF します。

1. [▭]キー＋電源オン ➠ [▭]キー ➠「F09 TX ビープ」を選択 ➠ [▭]キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”（初期値）を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

※ Bluetooth® ヘッドセットで音声自動送信（VOX）機能が有効な場合、TX ビープの設定が“OFF”でも、送信状態になったときに常にビープ音が鳴ります。

F10 RX ビープ

相手局の送信終了を知らせるビープ音を ON/OFF します。

1. [▭]キー＋電源オン ➠ [▭]キー ➠「F10 RX ビープ」を選択 ➠ [▭]キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”（初期値）を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F11 送信出力制限

選択できる最大送信出力を設定します。

1. [▭]キー＋電源オン ➠ [▭]キー ➠「F11 送信出力制限」を選択 ➠ [▭]キー
2. ロータリースイッチをまわして制限したい送信出力を選択します。

High 許可（初期値）	選択できる最大送信出力は、High パワー（5W）までになります
Mid 許可	選択できる最大送信出力は、Mid パワー（2.5W）までになります
Low 固定	送信出力は Low パワー（1W）だけになり、その他の出力は選択できません
受信専用	送信が禁止になり、受信専用になります

3. [▭]（決定）キーを押します。

F12 CH・UC 非表示

チャンネル番号および UC（ユーザーコード）を常に表示させるか、指定した時間が経過すると消えるようにできます。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F12 CH・UC 非表示」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”（初期値）を設定します。

常時表示（初期値）	消えることなく常時表示されます
1 秒表示～ 60 秒表示	設定した時間が経過すると表示が消えます

4. [▭]（決定）キーを押します。

F13 送信中 CH・UC 非表示

「F12 CH・UC 非表示」の設定を“常時表示”以外に設定し、表示が消えている時に送信した時の、チャンネル番号および UC（ユーザーコード）の表示条件を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F13 送信中 CH・UC 非表示」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“表示する”（初期値）/“表示しない”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。。

F14 受信時 CH・UC 非表示

「F12 CH・UC 非表示」の設定を“常時表示”以外に設定し、表示が消えている時に信号を受信した時の、チャンネル番号および UC（ユーザーコード）の表示条件を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F14 受信時 CH・UC 非表示」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“表示する”（初期値）/“表示しない”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F15 弱電界アラーム

受信信号が微弱になったことを知らせる弱電界アラームの ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F15 弱電界アラーム」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“OFF”（初期値）/“アラームデフォルト”/“アラーム A”～“アラーム M”を選択します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F16 不在着信ベル

相手からの個別呼び出しを受けた後に応答しなかった場合、設定した条件でベル（電子音）を鳴らすことができます。
なお、“グループ呼び出し”や“一斉呼び出し”での着信では、ベルは鳴りません。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F16 不在着信ベル」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして希望の動作を選択して、[▭]（選択）キーを押します。

OFF（初期値）	機能は動作しません。
5 秒毎×2回	5 秒毎に 2 回鳴らします
2秒毎	2 秒毎に連続して鳴らします
1分毎	1 分毎に連続して鳴らします
連続	連続音を鳴らします

3. ロータリースイッチをまわしてビープ音の種類(A ～ M の 13 種類)を選択して、[▭]（選択）キーを押します。
4. ロータリースイッチをまわしてバイブレーターの動作の“ON”/“OFF”を選び [▭]（決定）キーを押します。

F17 アンサーバック

特定の相手局と交信できる状態か確認するアンサーバック機能の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F17 アンサーバック」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”（初期値）/“OFF”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F18 電池アラーム

バッテリーが少なくなったことを知らせるアラーム機能の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F18 電池アラーム」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”（初期値）/“OFF”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F19 CH ガイダンス

電源をオンにしたときやチャンネルを変更した時に、チャンネル番号を音声で案内する機能の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F19 CH ガイダンス」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“OFF”（初期値）/“連動”/“固定”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F20 クイックアンサー

あらかじめ機能を割り当てた P1 キーまたは P2 キーを押すと、録音しておいた音声メッセージを自動送信することができる機能の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F20 クイックアンサー」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”（初期値）/“OFF”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F21 ACC 電源

側面の MIC/SP 端子に接続したオプションに供給する、5V 電源の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F21 ACC 電源」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”（初期値）を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F22 オーディオ出力

受信音やビープ音の音量を、出力先（本体 / スピーカーマイク / イヤホン）にあわせて、最適になるように切り替えます。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F22 オーディオ出力」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわしてオーディオの出力先を設定します。

本体（初期値）	本体スピーカーに最適な音量になります
スピーカマイク	スピーカーマイクに最適な音量になります
イヤホン	イヤホンに最適な音量になります

3. [▭]（決定）キーを押します。

F23 PTT ホールド

PTT（通話）ボタン（セカンダリ PTT を含む）の動作を、一度押して放しても送信状態を保持して、もう一度押すと待ち受けに戻る動作に変更することができます。詳しくは 57 ページの「PTT ホールド機能」を参照してください。

F24 ワンタッチ VOL

あらかじめ機能を割り当てた P1 キーまたは P2 キーを押すと、音量ツマミをまわさずにワンタッチで音量を一時的に変更することができます。もう一度キーを押すと解除されます。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F24 ワンタッチ VOL」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして音量（レベル 00 ～レベル 31（初期値レベル 00））を調節します。レベル 00 では、音量が OFF になります。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F25 CH 空き通知

使用したいチャンネルがすでに交信中の場合、PTT（通話）ボタンを 2 回短押しすると空き通知機能が動作し、チャンネルが空いた状態になるとビープ音で知らせる機能の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F25 CH 空き通知」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F26 セミ VOX

音声自動送信（VOX）機能がオンのときに周囲の騒音などで不用意に送信しないようにすることができます。自動で送信状態にはならずに、PTT（通話）ボタンを押すと送信状態になり、話をしている間は PTT（通話）ボタンを放しても送信を続け、話を止めると自動で待ち受け状態に戻る機能の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F26 セミ VOX」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F27 VOX 送信保持時間

送信から待ち受けに戻るまでの時間を調整します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F27 VOX 送信保持時間」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして、待ち受け状態に戻るまでの時間（OFF/0.2 秒/0.5 秒/1 秒/1.5 秒/2 秒/3 秒（初期値 1 秒））を調節します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F28 セカンダリ PTT

“セカンダリ PTT”が割り当てられた [P1] キーまたは [P2] キーを押した時の動作を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F28 セカンダリ PTT」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして希望の動作を設定します。

待受受信時送信	待受受信を開始した時のチャンネルで送信します。
リモート PA	リモート PA 機能として動作します
待受＋固定 CH 送信	待受受信時は“待受受信を開始した時のチャンネル”で送信し、待ち受け受信 OFF 時は、CH01 で送信します。
固定 CH 送信	CH01 で送信します
使用しない	セカンダリ PTT は使用しません

3. [▭]（決定）キーを押します。

F29 待受受信タイプ

待ち受け受信機能動作時の待受方式を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F29 待受受信タイプ」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“プログラム 1”または“プログラム 2”を選択します。
   プログラム 1 または 2 には、待受受信したい複数のチャンネルをあらかじめ設定し、待受受信チャンネルと通話チャンネルを自動的に切り替えてモニターしながら待ち受けします。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F30 待受受信 PTT

待受受信機能動作中の PTT ボタン操作時に送信するチャンネルを設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F30 待受受信 PTT」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして希望の動作を設定します。

指定 CH1/ 指定 CH2	簡易メニューの「待受受信指定 CH 1」または「待受受信指定 CH2」で設定したチャンネルで送信します。
ポジション CH	通話チャンネルで送信します
最終通話 CH（初期値）	最後に待受受信で停止したチャンネルで送信します
AUTO	待受受信が動作中に PTT を押すと、その時のチャンネルに通話相手も自動で移動します。相手の信号が十分強い状態の中で使用してください。

3. [▭]（決定）キーを押します。

F31 待受受信 RX

待受受信動作後に、信号を受信して待受受信が停止した後の待受受信再開条件を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F31 待受受信 RX」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして希望の動作を選択します。

   待受受信続行： 通話終了後、一定時間が経過すると待受受信を再開します。
   待受受信終了： 待受受信は終了し、停止したチャンネルに移行します。

3. [▭]（決定）キーを押すと、設定が確定されます。

F32 上空チャンネル

上空用の 15 チャンネル（CHS1 ～ CHS15）を受信できるようになります。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F32 上空チャンネル」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“OFF”（初期値）/“モニター”を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F33 バッテリーセーブ

待ち受け状態でのバッテリー消耗を減らすバッテリーセーブ（間欠受信）機能の ON/OFF を設定します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F33 バッテリーセーブ」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“**OFF**”（初期値）を設定します。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F34 自動電源 OFF

設定した時間何も操作しないと、電源の切り忘れとみなして自動的に電源をオフにして、バッテリーの消耗を防ぎます。電源がオフになる約 1 分前に警告音が鳴ります。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F34 自動電源 OFF」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして、自動で電源がオフになるまでの時間（1 時間～ 8 時間）を設定します（初期値は OFF）。
3. [▭]（決定）キーを押します。

F35 P1 キー短 ～ F38 P2 キー長

P1 キーまたは P2 キーを短押しした時の機能と長押ししたときの機能を変更できます。詳しくは 9 ページの「P1 キー /P2 キーに機能をプログラムする」を参照してください。

F39 Mandown0 度設定

無線機が一定時間 60 度以上傾いた状態になると緊急動作を行う“マンダウン機能”動作時の、基準となる 0 度を設定することができます。無線機を斜めの状態で使用する場合などに 0 度設定を行います。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F39 Mandown0 度設定」を選択
2. [▭]（実行）キーを押します。
   現在の状態が 0 度に設定され、この状態から一定時間 60 度以上傾くと、緊急動作を行います。

F40 履歴リセット

着信履歴、発信履歴、メッセージ履歴を消去します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F40 履歴リセット」を選択 ➠ [▭] キー
2. 確認画面が表示されますので、ロータリースイッチをまわして“YES”を選択します。リセットを中止するときは“NO”を選択します。
3. [▭] キーを押すと履歴が消去されます。

F41 設定リセット

無線機のすべての設定を初期化します。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F41 設定リセット」を選択 ➠ [▭] キー
2. 確認画面が表示されますので、ロータリースイッチをまわして“YES”を選択します。リセットを中止するときは“NO”を選択します。
3. [▭] キーを押すと無線機の設定が初期化されます。

F42 TX AGC

ノイズキャンセリング機能を使用する時の設定をします。

1. [▭] キー＋電源オン ➠ [▭] キー ➠「F42 TX AGC」を選択 ➠ [▭] キー
2. ロータリースイッチをまわして“ON”/“OFF”を設定します。

OFF（初期値）	タイピンマイクなどの外部マイクを使用せず、無線機をそのまま使う“2 マイク方式”のノイズキャンセリング機能を使用する時。
ON	無線機を腰などに付けて、タイピンマイクなどの外部マイクを使う“1 マイク方式”のノイズキャンセリング機能を使用する時。

3. [▭]（決定）キーを押します。

コールメニュー

無線機の通信に関係する設定を変更します。

1. [▭] キーを押しながら、[**VOL**] ツマミを右にまわして電源を入れます。
2. ロータリースイッチをまわして“コールメニュー”を選択して、[▭]（選択）キーを押します。
3. ロータリースイッチをまわして設定するメニュー項目を選択して、[▭]（選択）キーを押します。

4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

項 目	設定値（初期値：太字）	機 能
C01 通信方式（D）	**UC 通信** / 個別通信	通信方式の選択
C02 UC設定	**共通** /CH 毎	ユーザーコードの使用チャンネルの設定
C03 UC（D）	**000** ～ 511	ユーザーコードの設定
C04 自局 ID（D）	**個別 001** ～個別 200	個別通信時の自局 ID 設定
C05 グループ ID（D）	**グループ 01** ～ グループ 30	個別通信時の自グループ ID 設定
C06 UCベル	回数：**0 回** /1 回 /2 回 /3 回 音タイプ：**A** ～ M バイブレータ：ON/**OFF**	同一 UC からの呼び出しを知らせるベル音の鳴る回数、音のタイプ、バイブレータの設定
C07 個別ベル	回数：0 回 /**1 回** /2 回 /3 回 音タイプ：A ～ **B** ～ M バイブレータ：**ON**/OFF	個別呼び出しを知らせるベル音の鳴る回数、音のタイプ、バイブレータの設定
C08 グループベル	回数：**0 回** /1 回 /2 回 /3 回 音タイプ：**A** ～ M バイブレータ：ON/**OFF**	グループ呼び出しを知らせるベル音の鳴る回数、音のタイプ、バイブレータの設定
C09 宛先設定	**通話前** / 通話中 / 固定	個別通信で応答待ち時間（通話タイマー）が経過して、待機状態に戻る際の、呼び出し先表示の条件を設定することができます。
C10 固定宛先（D）	個別 001 ～ 200 グループ 01 ～ 30 **一斉**	個別通信の待ち受け画面に表示させる、相手局の ID またはグループ ID を設定します。
C11 通話タイマー	**5 秒** /10 秒 /15 秒 / 30 秒 /60 秒 /CONT	個別通信時の通話保持時間の設定
C12 秘話設定	**共通** /CH 毎	秘話コードの使用チャンネルの設定
C13 コールモード	**OFF**/ON/CH 毎	コール機能の動作チャンネルの設定

C01 通信方式（D）

通信方式を“UC 通信”または“個別通信”に切り換えることができます。

1. コールメニューの「C01 通信方式」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして通信方式を選択します。

UC 通信（初期値）	UC（ユーザーコード）通信方式になります
個別通信	個別通信方式になります

3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C02 UC 設定

ユーザーコードをチャンネル毎に設定するか、全てのチャンネルで共通にするかを設定します。

1. コールメニューの「C02 UC 設定」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわしてユーザーコードの使用条件を選択します。

共通	全てのチャンネルで共通のユーザーコードを使用します。
CH 毎	チャンネルごとに異なる UC コードを使用します。

3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C03 UC（D)

ユーザーコードを設定します。

1. コールメニューの「C03 UC（D)」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして、希望の数字を選択します。
3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. 手順 2. と 3. を繰り返してユーザーコードを 3 桁入力し、[⊖]（決定）キーを押します。
   ユーザーコードは“000”～“511”を設定できます。
5. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C04 自局 ID（D)

個別通信に使用する自局 ID を設定します。

1. コールメニューの「C04 自局 ID（D)」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして、希望の自局 ID を選択します。
3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C05 グループ ID（D）

個別通信のグループ呼出に使用する自グループ ID を設定します。

1. コールメニューの「C05 グループ ID（D）」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして、希望のグループ ID を選択します。
3. [▭]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C06 UCベル

UC 通信で運用中に、UC（ユーザーコード）が同じ相手局から、呼び出しを受けた時にビープ音を鳴らすことができます。詳しくは、58 ページの「UC ベル機能（UC 通信のみ）」を参照してください。

C07 個別ベル

個別通信で運用中に、個別呼び出しを受けた時にビープ音を鳴らすことができます。詳しくは、58 ページの「個別ベル / グループベル（個別通信のみ）」を参照してください。

C08 グループベル

個別通信で運用中に、グループ ID が同じ相手局から呼び出しを受けた時にビープ音を鳴らすことができます。詳しくは、58 ページの「個別ベル / グループベル（個別通信のみ）」を参照してください。

C09 宛先設定

個別通信で応答待ち時間（通話タイマー）が経過して、待機状態に戻る際の、呼び出し先表示の条件を設定することができます。

1. コールメニューの「C09 宛先設定」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして、希望の表示方法を選択します。

通話前（初期値）	通話を行う前に設定した呼び出し先の ID を表示します。
通話中	通話していた相手局の ID を表示します。
固定	あらかじめ「固定宛先（D）」で設定した呼び出し先の ID を表示します。

3. [▭]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C10 固定宛先（D）

「C09 宛先設定」を“固定”に設定した際に表示させる宛先 ID を設定します。

1. コールメニューの「C10 固定宛先（D）」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして、表示させる個別 ID やグループ ID または一斉を選択します。
3. [▭]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C11 通話タイマー

応答待ち時間（通話タイマー）を設定することができます。通話タイマーとは、相手が応答するまでの待ち時間で、呼び出した側または呼び出しを受けた側両方でタイマーが動作します。タイマー動作中は LED インジケータが水色に点灯します。

1. コールメニューの「C11 通話タイマー」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして、希望の応答待ち時間を選択します。
   設定できる時間は 5 秒、10 秒、15 秒、30 秒、60 秒、CONT（連続）です。
3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C12 秘話設定

秘話コードをチャンネル毎に設定するか、全てのチャンネルで共通にするかを設定します。

1. コールメニューの「C12 秘話設定」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわして秘話コードの使用条件を選択します。

共通	全てのチャンネルで共通の秘話コードを使用します。
CH 毎	チャンネルごとに異なる秘話コードを使用します。

3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

C13 コールモード

コール機能の動作の ON/OFF をチャンネル毎に設定するか、全てのチャンネルで動作するかを設定します。

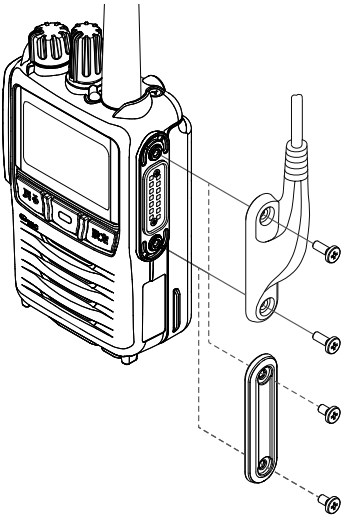
1. コールメニューの「C13 コールモード」を選択します。
2. ロータリースイッチをまわしてコール機能の使用条件を選択します。

ON	全てのチャンネルでコール機能が動作します。
CH 毎	動作を ON にしたチャンネルのみでコール機能が動作します。
OFF	コール機能は動作しません。

3. [⊖]（決定）キーを押します。
4. 電源を切って再び電源を入れるとチャンネル表示に戻ります。

オプションの取り付け

1. ネジを外して MIC/SP 端子のアクセサリーコネクタ保護カバーを取り外します。
2. オプションに付属のネジを使って、オプションを取り付けます。



注意 オプション類は、無線機の電源を切った状態で取り付けてください。

補足
- 取り外したアクセサリーコネクタ保護カバーとネジは、必ず保管しておいてください。
- MIC/SP 端子やオプションのコネクタの端子を、時々乾いた布や綿棒で拭いてください。端子が汚れると接触不良により、正常に使用できません。
- オプション類を接続しないときは、MIC/SP 端子にアクセサリーコネクタ保護カバーを取り付けておいてください。

◎外部マイクの感度について
セットメニューの「F04 外部マイク感度」（63 ページ参照）で、マイク感度を調節することができます。

◎オプションの電源供給について
5V の電源を必要とするオプション類に電源を供給することができます。セットメニューの「F21 ACC 電源」（67 ページ参照）を“ON”に設定します。（工場出荷時設定は“OFF”です）

故障かな?と思う前に

間違った操作をしていませんか？修理を依頼される前にお確かめください。

◎ 電源が入らない！

・リチウムイオンバッテリーが消耗していませんか？
  ➠ リチウムイオンバッテリーを充電してください。
・リチウムイオンバッテリーの端子が接触不良になっていませんか？
  ➠ 端子を乾いた布で拭いてください。
・リチウムイオンバッテリーが古くなっていませんか？
  ➠ リチウムイオンバッテリーの寿命です。新しいリチウムイオンバッテリーとお取り替えください。

◎ 送信できない！

・**PTT**（通話）ボタンを正しく押していますか？
・**PTT**（通話）ボタンがロックされていませんか？
・上空用チャンネルになっていませんか？
  ➠ “CHS1” ～ “CHS15” の上空チャンネルは、受信専用（モニターのみ）で送信することはできません。
・**PTT**（通話）ボタンを押した時ディスプレイに “送信待機” と表示されていませんか？
  ➠ 基準値以上の強さの電波を受信してるため、混信を防ぐキャリアセンス機能により送信が禁止されています。信号が無くなってから送信するか、混信のないチャンネルに切り換えてください。

◎ 音がでない！

・消音（ミュート）機能が「オン」になっていませんか？

◎ 通話できない！

・相手局と同じチャンネルに設定していますか？
・相手局との距離が離れすぎていませんか？
・相手局と同じ通信方式に設定していますか？
  ➠ 本無線機はデジタル通信方式の無線機です。アナログによる交信はできません。
・相手局と同じ UC（ユーザーコード）に設定していますか？
・個別通信の場合、宛先 ID/ グループ ID があっていますか？
・秘話通信機能が動作していませんか？
  ➠ お互いに秘話通信機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

◎ キー操作ができない！

・ディスプレイに “🔑” が表示されていませんか？
  ➠ キーロック機能を割り当てた P1 キーまたは P2 キー（工場出荷時は、P1 キー）を長押ししてキーロックを解除してください。

定格

一般

送受信周波数：デジタル簡易無線登録局（6.25kHz 間隔、82 波）
351.03125MHz ～ 351.10000MHz、
351.20000MHz ～ 351.63125MHz
上空用チャンネル（6.25kHz 間隔、15 波）
351.10625MHz ～ 351.19375MHz（モニターのみ可）
電波型式：　F1C/F1D/F1E/F1F
通信方式：　単信プレストーク式
電池持続時間：1900mAh リチウムイオンバッテリー（SBR-33LI）
（5W 出力、送信：受信：待受＝ 5：5：90 の割合）
セーブ機能オフ時：約 11 時間
セーブ機能オン時：約 16 時間
電源電圧：　DC7.4V ± 10%
温湿度範囲：　温度　－ 20℃～ +60℃
湿度　95%（35℃）
本体寸法：　高さ 91.5mm ×幅 55.8mm ×奥行き 29.4mm
※ SBR-33LI 装着時、突起部を含まず
重量：　約 237g
（SBR-33LI、アンテナ、アクセサリーコネクタ保護カバーを含む）

送信部

空中線電力：　5W/2.5W/1W（+20%、－ 50% 以内）
空中線インピーダンス：　50 Ω 不平衡
発振方式：　水晶発振制御による周波数シンセサイザ方式
周波数許容偏差：　± 1.5ppm 以内
変調方式：　4 値 FSK
占有周波数帯域幅：　5.8kHz 以下
最大周波数偏移：　± 1324Hz 以内
隣接チャンネル漏洩電力：－ 52dB 以下（5W 時）
スプリアス発射：　2.5 μ W 以下
不要輻射：　2.5 μ W 以下
標準変調入力：　－ 44dBm ± 5dB
変調入力インピーダンス：600 Ω

受信部

受信方式：	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数：	第 1：52.016MHz、第 2：16kHz
局発周波数変動：	± 1.5ppm 以内
受信感度：	−2dB μ V 以下（BER=1%）
スプリアスレスポンス：	53dB 以上（BER=1%）
隣接チャンネル選択度：	6.25kHz 42dB 以上（BER=1%）
相互変調特性：	53dB 以上 （± 12.5kHz、± 25kHz）（BER=1%）
低周波出力：	0.8W 以上（10% 歪時）
低周波出力インピーダンス：	16 Ω
副次的に発する電波等の強度：	4nW 以下

Bluetooth® のワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、八重洲無線株式会社はライセンスに基づいて使用しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.
U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

安全上のご注意　～必ずお読みください～

本機を安全に正しくお使いいただくために、次のことに十分ご注意ください。

危険　誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

警告　誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています

注意　誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています

行ってはならない禁止事項です（例 分解禁止）。

必ず守っていただきたい注意事項です。

危険

自動車を運転しながら交信や操作をしない
事故の原因になるだけでなく、道路交通法違反になります。
運転者が使用するときには、車を安全な場所に止めてからご使用ください。

航空機内や病院内などの“使用を禁止された区域”では電源を切る
電子機器や医療機器に影響を及ぼす場合があります。

引火性ガスの発生する場所や高所などの危険な場所で使用しない
発火事故や落下事故などの原因になります。

電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者の診断を受けてください。

電源端子やリチウムイオンバッテリーの端子にはんだ付けやショートをしない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。ネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運ばないでください。

リチウムイオンバッテリーを火のそばや、炎天下など高温の場所で充電・使用・放置しない
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

電池が漏液して皮膚に付着したり、目に入ると危険
化学火傷を起こすおそれがあります。直ちに医者の診断を受けてください。

警告

分解や改造をしない
本機は電波法に基づく無線局で使用する通信機器です。
分解や改造は違法ですのでおやめください。また、ケガ等の事故や故障の原因になります。

本機は、“IP68 相当”の防塵・防浸構造になっておりますが、特に海水などがついたときは真水で洗い流し、乾いた布などで拭きとる
性能や寿命を低下させる原因になります。

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない
本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

心臓ペースメーカー装着者は使用しない
本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

当社指定以外の充電器を使用しない
火災や故障の原因になります。

煙が出ている、変な臭いがするときは電源スイッチを切って、リチウムイオンバッテリーを外す
火災や故障の原因になります。お買い上げいただきました販売店にご相談の上、修理を依頼してください。

心臓ペースメーカー装着者に配慮し、人ごみでは電源を切る
本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

⚠ 注意

指定以外のオプションを使用しない
ケガの原因になります。
また、本体の故障や破損の原因にもなります。

強い衝撃を加えたり、投げつけたりしない
故障の原因になります。

リチウムイオンバッテリーを指定の充電器で充電するときの温度範囲は 5℃～ 35℃です
これ以外の温度での充電は、故障の原因になります。

磁気カードなどを無線機に近づけない
キャッシュカードなどの内容が消去されることがあります。

無線機を直射日光の当たる場所や熱器具の近くに放置しない
変形や変色等の原因になります。

シンナーやベンジンなどでケースを拭かない
変形や変色等の原因になります。
ケースが汚れた場合には、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

索引

A

ARTS 機能 55

B

Bluetooth 機能 ..... 14、50
Bluetooth の設定 6

C

CUE 機能 13

L

LED インジケータ 18

M

MIC/SP 端子 18

P

P1 キー 17
P1 キー /P2 キーに機能を
プログラムする 9
P1 キー /P2 キーに設定できる機能 10
P2 キー 17
PTT ホールド機能 57
PTT(通話) ボタン 16

R

RX イコライザー機能 49

T

TX イコライザー機能 49

U

UC（ユーザーコード）通信 31
UC ベル機能 58

V

VOL ツマミ 16
VOX 感度 49
VOX 機能 39

あ

ARTS 機能 55
宛先 ID 53
アフターサービス 2
アルカリ乾電池ケースの使いかた 26
アンサーバック 53
安全上のご注意 80
アンテナコネクター 16
アンテナの取り付け 22

い

一斉呼出 33
一斉呼び出しを受けたとき 37

お

オプション 5
オプションの取り付け 76
音声自動送信（VOX）機能 ..... 7、39

か

拡張機能 59
各部の名前と機能 16
簡易設定 43

き

キーロック機能 29
基本的な使いかた 28
キャリアセンス機能 38
キュー機能 13

く

クイックアンサー機能 47
クイックガイド 8
グループの設定 35
グループベル 58
グループ呼出 33
グループ呼び出しを受けたとき 37

こ

高温時の保護機能 38
構成品 5
購入後に初めて電源を入れた時 6
コール動作 55
コールメニュー 72
故障かなと？と思う前に 77
個別通信 33
個別ベル 58
個別呼出 33
個別呼び出しを受けたとき 37

さ

再生機能 46

し

自局情報 52
消音機能 40
上空用チャンネルモニター 4

す

スピーカー 17

せ

セカンダリ PTT 機能 56
接続するヘッドセットを変更したい場合 7

設定キー 18
セットメニュー 60
セミ VOX 機能 40
全員を一斉に呼び出す 36

そ

送信出力設定 39

た

正しくご使用いただくために 3

ち

着信履歴 53
チャンネル構成とコールチャンネル 4

つ

通信時に動作する機能について 38
通信方式に関して 4
通信方式について 30

て

定格 78
デジタル簡易無線局について 4
電池の消耗について 27
電波干渉について 3

と

特定の相手を呼び出す 35
特定のグループに属する全員を呼び出す 35

の

ノイズキャンセリングマイク 18
ノイズキャンセル機能 49

は

発信履歴 53

ひ

ヒートプロテクション 38
秘話通信機能 46

ふ

フルドットディスプレイ 19

へ

ベルトクリップの取り付け 22
便利な機能 12

ほ

防水性能について 3

ま

マイク 17
待受受信機能 47
待受受信タイプ 48
待受受信チャンネル 48
マルチチャンネル待ち受け機能 12
マルチチャンネル待ち受けを中止する時 12
マンダウン 42

み

ミュート 40

む

無線機情報 52

め

メイン画面 50
メッセージ確認 54
メッセージ送信 54

も

戻るキー 16

ゆ

ユーザーコード 45
ユーザーコード通信 31

よ

呼び出しを受けたとき 37

ら

ライト禁止 46

り

リチウムイオンバッテリー 17
リチウムイオンバッテリーの充電方法 24
リチウムイオンバッテリーを取り付ける 23
リチウムイオンバッテリーを取り外す 23
リモート PA 機能 15
リモート制御 54

れ

連続送信時間制限 38

ろ

ロータリースイッチ 16
ロータリー動作 56
ローンワーカー 41

メモ

Radio Communication Solutions
株式会社ジャパンエニックス
JAPAN ENIX CO.,LTD.

□ 本　　社　東京都品川区南品川 2-7-18　TEL 03-5715-2351
□ 関 西 支 店　大阪市西区千代崎 1-24-11　TEL 06-6583-7700
□ 札 幌 営 業 所　□ 名古屋営業所
□ 仙 台 営 業 所　□ 九 州 営 業 所
https://www.jenix.co.jp/　営業所住所はこちら▶

STANDARD HORIZON

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがご購入いただいた販売店または、下記までご相談ください。

取扱説明書の記載内容を予告無く変更する場合があります。
詳しくは下記の URL をご覧ください。

八重洲無線株式会社
〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-3　大森ベルポートD-3F
電話：03-6404-6525
URL：http://www.yaesu.com/jp/

E N 0 0 8 U 0 2 1

2309K-BS
Printed in Japan